

Ⅲ 県外観光客動態調査

1 概要

● はじめに

本調査は、観光施策の基礎資料とすることを目的に高知県内の観光地 10 地区で四季ごとにアンケートを実施し、結果をとりまとめた。

調査精度の均一化を図るため、委託事業者の調査員(2名)による対面聞き取り方式のアンケート調査を実施。時間帯も 10 時から 17 時まで偏りがないように調整しながら調査している。あわせて 1 グループに 1 名(1 回答)を徹底した。

なお、暦年調査のため、四季別データは冬春夏秋の順で表示した。

● 調査場所 (10 ヶ所)

室戸岬、モネの庭、アンパンマンミュージアム、龍河洞、高知城、桂浜、土佐和紙工芸村、黒潮本陣、四万十川観光開発遊覧船乗場、足摺岬

● 調査時期

- ・ 冬期：平成 25 年 12 月 21 日～平成 26 年 1 月 12 日
- ・ 春期：平成 26 年 5 月 3 日～平成 26 年 5 月 17 日
- ・ 夏期：平成 26 年 7 月 19 日～平成 26 年 8 月 31 日
- ・ 秋期：平成 26 年 10 月 4 日～平成 26 年 11 月 22 日

※冬期のモネの庭、夏期のモネの庭、土佐和紙工芸村、黒潮本陣、秋期のモネの庭、龍河洞、室戸岬、アンパンマンミュージアムでは、1 日で十分なサンプル数を得ることができず、2 日間調査を行っている。

● 平成 26 年度観光統計調査の特徴

県内旅行日数は前年と同じ 2.1 日。

日帰り客と宿泊客の割合（P18：表 3-1）は、「3泊4日」が 0.3 ポイント増の 5.9%、「5泊6日以上」が 0.2 ポイント増の 3.2%、「1泊2日」が 0.1 ポイント増の 38.3%、「2泊3日」が 0.3 ポイント減の 16.6%、「4泊5日」が 0.3 ポイント減の 1.9%、「日帰り」が横ばいの 34.1%となっている。結果的に、県内旅行の平均日数（P26：図 5-1）は前年と同じ 2.1 日となっている。

近畿からの入込割合が増加。

発地ブロック別入込割合（P21：表 4-1）では、近畿からの旅行者が増加しており、「近畿」からの旅行者は、前年に比べて 0.4 ポイント増加している。

また、ブロック別・近畿（P24：図 4-4）入込割合を見ると、兵庫県からの旅行者が 4.4 ポイントの増加となっている。

平均消費額は 277 円の減少。

県内平均消費額（P37：図 10-1）は、26,796 円で、前年比 277 円の減少となっている。その内訳（P37：参考 13）を見ると、「飲食費」が前年比で 330 円、入場料を含む「その他」が 72 円、「宿泊費」が 19 円増加し、「土産代」が 473 円、「交通費」が 225 円減少となっている。

また、年代別消費額費目別割合（P42：表 10-4）を前年と比べると、50代が 3,474 円増加しているのが目立って多くなっている。

旅行形態は「家族」が増加。

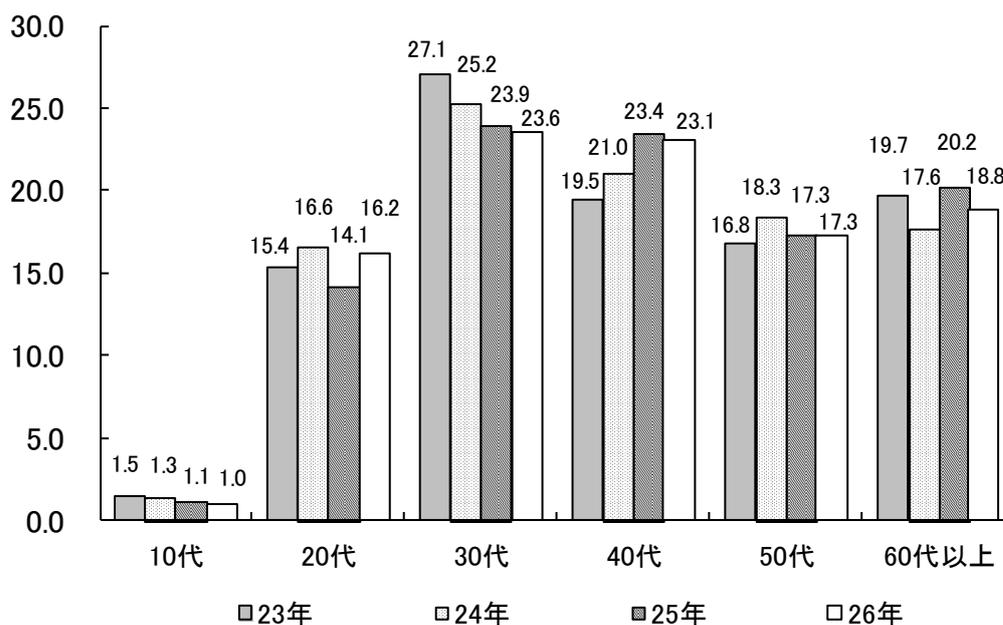
年代別旅行形態割合（P32：表 8-1）が、前年と比較すると「家族」が全体で 1.2 ポイント増加し、「その他」が 0.8 ポイント減少となっている。年代別に見ると、「家族」が 30 代以上の年代で増加している。

1 年代別入込割合

(表 2-1) 年代別旅行者割合(上段:件 下段:%) [26 年、過去 3 年間]

年代	年	23年	24年	25年	26年	対前年比 26年/25年
		(n=2929)	(n=2869)	(n=2873)	(n=2883)	
10 代		44	38	31	29	90.9%
		1.5	1.3	1.1	1.0	
20 代		452	476	404	466	114.9%
		15.4	16.6	14.1	16.2	
30 代		794	722	688	680	98.7%
		27.1	25.2	23.9	23.6	
40 代		570	601	672	666	98.7%
		19.5	21.0	23.4	23.1	
50 代		492	526	497	500	100.0%
		16.8	18.3	17.3	17.3	
60代以上		577	506	581	542	93.1%
		19.7	17.6	20.2	18.8	

(図 2-2) 年代別旅行者割合(%) [26 年、過去 3 年間]



(参考 1) 年代別性別旅行者割合(上段:件 下段:%) [26 年、過去 2 年間]

年代	平成24年 (n=2869)		平成25年 (n=2873)		平成26年 (n=2883)	
	男	女	男	女	男	女
10 代	23	15	20	11	11	18
	60.5	39.5	64.5	35.5	37.9	62.1
20 代	269	207	213	191	227	239
	56.5	43.5	52.7	47.3	48.7	51.3
30 代	442	280	364	324	377	303
	61.2	38.8	52.9	47.1	55.4	44.6
40 代	392	209	384	288	401	265
	65.2	34.8	57.1	42.9	60.2	39.8
50 代	329	197	276	221	318	182
	62.6	37.4	55.5	44.5	63.6	36.4
60代以上	335	171	320	261	342	200
	66.2	33.8	55.1	44.9	63.1	36.9
計	1790	1079	1577	1296	1676	1207
	62.4	37.6	54.9	45.1	58.1	41.9

年代別旅行者割合をみると、前年と比べ 20 代が増加し、10 代、30 代、40 代、60 代以上が減少し、50 代が横ばいとなっている。

平成 26 年の年代別割合をみると、30 代が 23.6%と最も多く、次いで 40 代が 23.1%、60 代以上が 18.8%となっている。

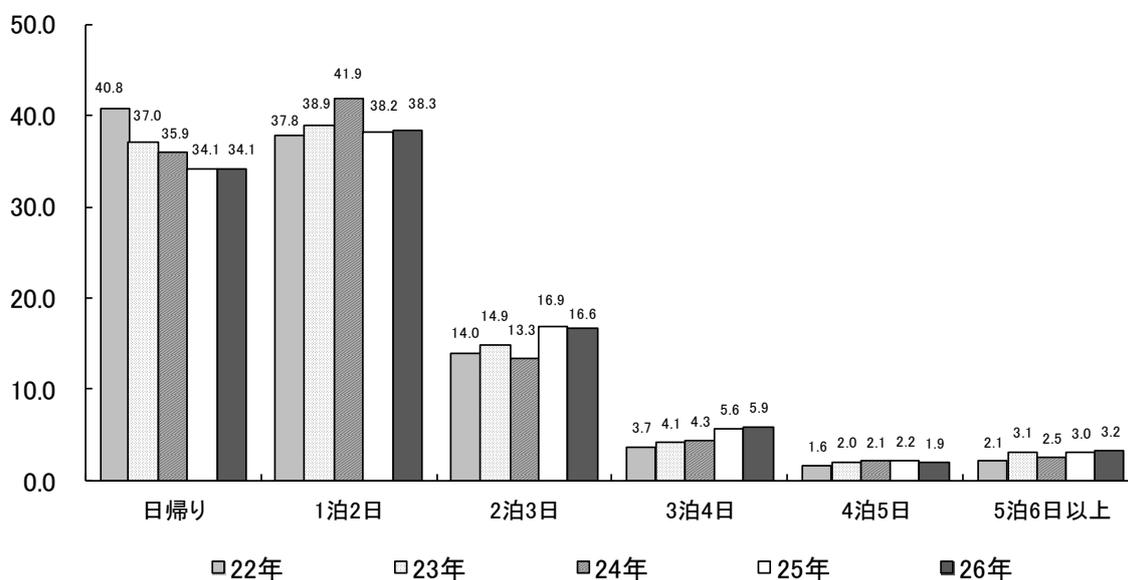
男女比は、男性が 58.1%、女性が 41.9%となっており、男性の割合が前年調査から 3.2 ポイント増加している。年代別にみると男性の割合が、30 代以上の年代で増加している。

2 日帰り客と宿泊客割合

(表 3-1) 年次別日帰り客・宿泊客割合(上段:件 下段:%) [26年、過去4年間]

年 \ 旅行日数	日帰り	1泊2日	2泊3日	3泊4日	4泊5日	5泊6日以上
22年 (n=2967)	1212	1123	415	109	47	61
	40.8	37.8	14.0	3.7	1.6	2.1
23年 (n=2929)	1084	1140	437	119	58	91
	37.0	38.9	14.9	4.1	2.0	3.1
24年 (n=2869)	1029	1201	381	125	61	72
	35.9	41.9	13.3	4.3	2.1	2.5
25年 (n=2873)	981	1096	486	162	62	86
	34.1	38.2	16.9	5.6	2.2	3.0
26年 (n=2883)	984	1104	478	169	54	94
	34.1	38.3	16.6	5.9	1.9	3.2

(図 3-2) 年次別日帰り客・宿泊客割合(%) [26年、過去4年間]



(表 3-3) 四季別日帰り客・宿泊客割合(上段:件 下段:%) [26 年、25 年]

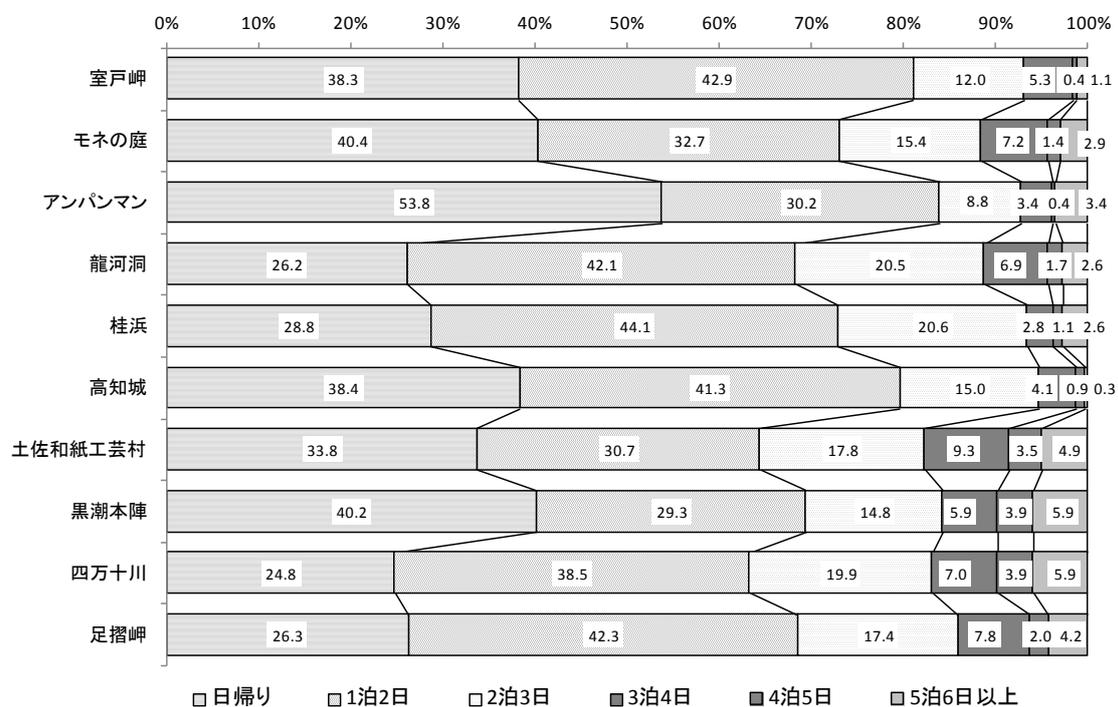
		日帰り	1泊2日	2泊3日	3泊4日	4泊5日	5泊6日以上
冬	25年	174	237	123	46	30	26
		27.4	37.3	19.3	7.2	4.7	4.1
	26年	178	234	118	56	21	44
		27.3	36.0	18.1	8.6	3.2	6.8
春	25年	301	298	108	22	3	8
		40.7	40.2	14.6	3.0	0.4	1.1
	26年	313	291	114	39	8	13
		40.2	37.4	14.7	5.0	1.0	1.7
夏	25年	216	318	145	57	18	35
		27.4	40.3	18.4	7.2	2.3	4.4
	26年	222	267	136	46	21	28
		30.8	37.1	18.9	6.4	2.9	3.9
秋	25年	290	243	110	37	11	17
		41.0	34.3	15.5	5.2	1.6	2.4
	26年	271	312	110	28	4	9
		36.9	42.5	15.0	3.8	0.6	1.2

日帰り客と宿泊客の割合を平成 22 年の調査から通してみると、「3泊4日」、「5泊6日以上」旅行の割合は過去最大となっている。

前年と比べると、「3泊4日」が 0.3 ポイント、「5泊6日以上」が 0.2 ポイント、「1泊2日」が 0.1 ポイント増加し、「2泊3日」、「4泊5日」が 0.3 ポイント減少しており、「日帰り」が横ばいとなっている。

四季別データを前年と比べると、冬期は「5泊6日以上」が 2.7 ポイント増加し、「1泊2日」が 1.3 ポイント減少となっている。春期は「3泊4日」が 2.0 ポイント増加し、「1泊2日」が 2.8 ポイント減少している。夏期は「日帰り」が 3.4 ポイント増加し、「1泊2日」が 3.2 ポイント減少している。秋期は「1泊2日」が 8.2 ポイント増加し、「日帰り」が 4.1 ポイント減少となっている。

(参考 2) 調査地別日帰り客・宿泊客割合(%) [26 年]



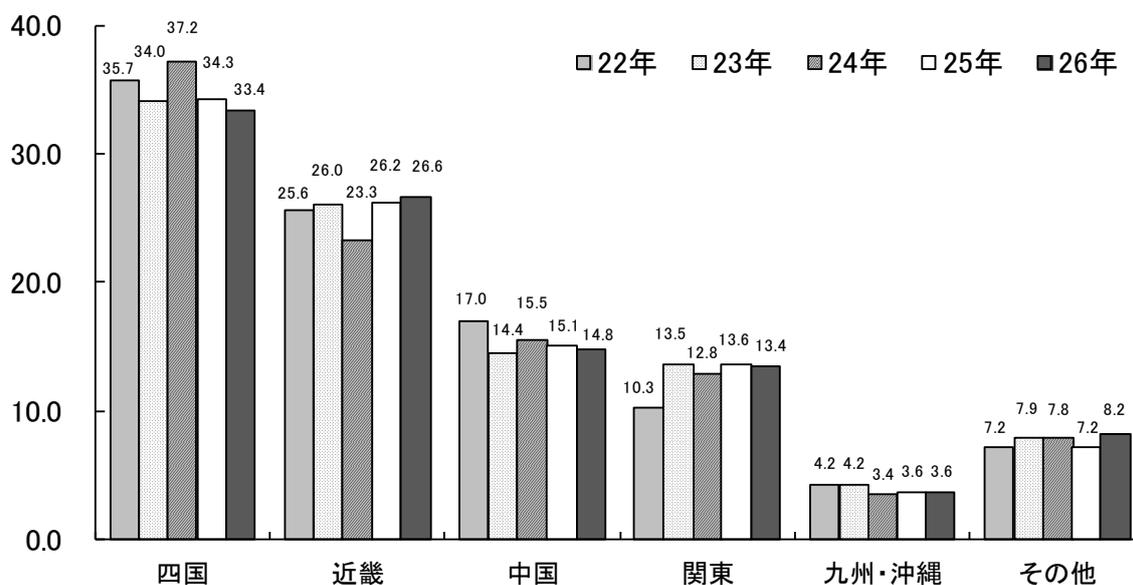
調査地別で日帰り客と宿泊客の割合（参考 2）をみると、アンパンマンミュージアムでは「日帰り」の割合が半数を超え、53.8%を占めている。一方で四万十川、龍河洞、足摺岬、桂浜では、「日帰り」が 20%台と目立って少なくなっており、四万十川、土佐和紙工芸村、龍河洞、足摺岬、黒潮本陣では「2泊3日」以上の割合が合わせて 30%以上となっている。

3 発地ブロック別入込割合

(表 4-1) 発地ブロック別入込割合(上段:件 下段:%) [26 年、過去 4 年間]

	四国	近畿	中国	関東	九州・沖縄	その他
22年 (n=2967)	1059 35.7	759 25.6	505 17.0	306 10.3	124 4.2	214 7.2
23年 (n=2929)	995 34.0	762 26.0	423 14.4	395 13.5	124 4.2	230 7.9
24年 (n=2869)	1066 37.2	669 23.3	446 15.5	368 12.8	97 3.4	223 7.8
25年 (n=2873)	985 34.3	754 26.2	435 15.1	392 13.6	102 3.6	205 7.2
26年 (n=2883)	962 33.4	766 26.6	428 14.8	387 13.4	105 3.6	235 8.2

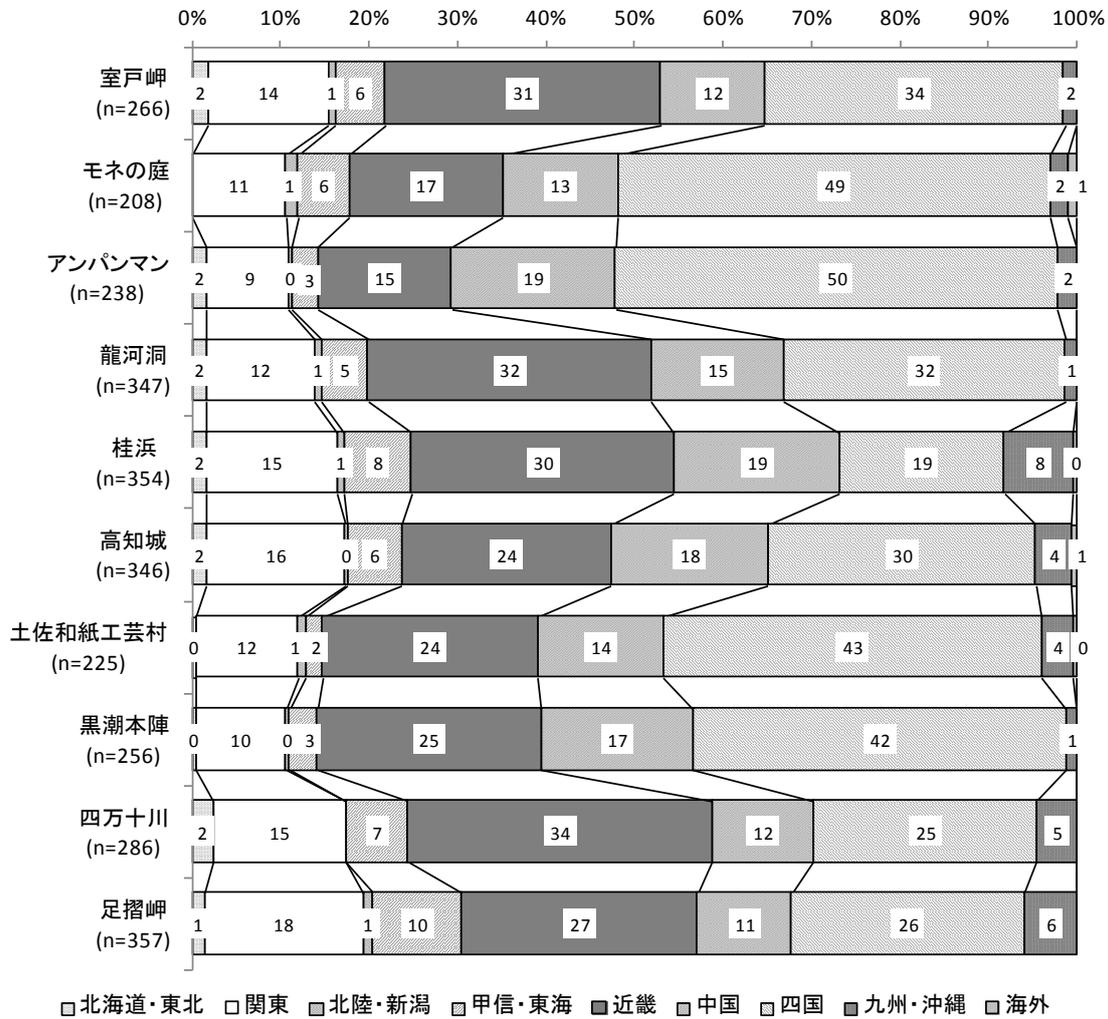
(図 4-2) 発地ブロック別入込割合(%) [26 年、過去 4 年間]



(参考 3) 発地ブロック別入込割合(上段:件 下段:%) [26 年、過去 4 年間 全地区データ]

	四国	近畿	中国	関東	九州・沖縄	甲信・東海	北陸・新潟	東北	北海道	海外
22年	1059	759	505	306	124	165	26	16	7	0
(n=2967)	35.7	25.6	17.0	10.3	4.2	5.6	0.9	0.5	0.2	0.0
23年	995	762	423	395	124	157	27	21	20	5
(n=2929)	34.0	26.0	14.4	13.5	4.2	5.4	0.9	0.7	0.7	0.2
24年	1066	669	446	368	97	154	32	20	17	0
(n=2869)	37.2	23.3	15.5	12.8	3.4	5.4	1.1	0.7	0.6	0.0
25年	985	754	435	392	102	134	32	22	16	1
(n=2873)	34.3	26.2	15.1	13.6	3.6	4.7	1.1	0.8	0.6	0.0
26年	962	766	428	387	105	168	20	22	19	6
(n=2883)	33.4	26.6	14.8	13.4	3.6	5.8	0.7	0.8	0.7	0.2

(参考 4) 調査地別発地ブロック別入込割合(%) [26 年]



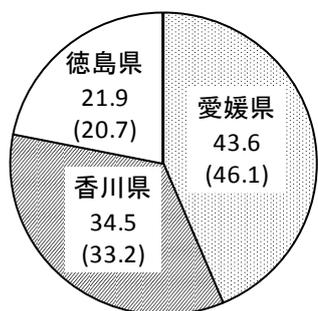
発地ブロック別入込割合を平成 22 年度の調査から通してみると、増加傾向にあった近畿からの旅行者の割合が過去最高の 26.6%となっている（P22：参考 3）。

前年と比べると、近畿が 0.4 ポイント増加し、四国が 0.9 ポイント、中国が 0.3 ポイント、関東が 0.2 ポイント減少し、九州・沖縄が横ばいとなっている。

調査地別での入込割合を発地ブロック別でみると（P22：参考 4）、四国からの入込はアンパンマンミュージアムが 50%、モネの庭が 49%と半数を占めている。四国・中国・近畿の近隣 3 ブロック合計で占める割合をみると、アンパンマンミュージアム、黒潮本陣が 84%、土佐和紙工芸村が 81%と多くなっている。人口の多い関東・近畿ブロック合計では、四万十川が 49%と最も多く、次いで室戸、桂浜、足摺岬が 45%、龍河洞が 44%と続いている。

なお、調査地別の入込割合（P25：参考 5）では、四国が 6 地点、近畿が 4 地点で一位となっている。同二位は、近畿が 5 地点、四国が 4 地点、中国が 2 地点となっている（桂浜の二位は、中国と四国が同数）。

(図 4-3) ブロック別・四国(%)

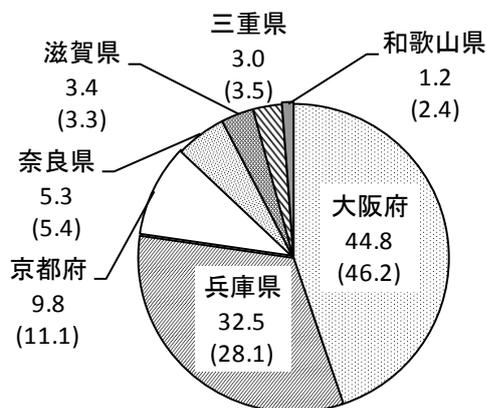


()内の数値は 25 年

前年と比べ、香川が 1.3 ポイント、徳島が 1.2 ポイント増加、愛媛が 2.5 ポイント減少となっている。

愛媛は全体の入込割合で一位、また 4 つの調査地において入込割合の一位となっている。香川は全体の三位、龍河洞、モネの庭で一位となっている。徳島は全体の五位、室戸岬で一位となっている (P25 : 参考 5)。

(図 4-4) ブロック別・近畿(%)

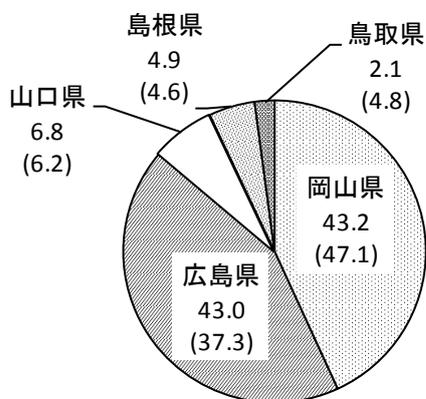


()内の数値は 25 年

前年と比べ、兵庫が 4.4 ポイント、滋賀が 0.1 ポイント増加、大阪が 1.4 ポイント、京都が 1.3 ポイント、和歌山が 1.2 ポイント、三重が 0.5 ポイント、奈良が 0.1 ポイント減少となっている。大阪と兵庫の 2 府県で 77.3%と、近畿ブロックの約四分の三を占めている。

大阪は全体の入込割合で二位、3 つの調査地で一位、2 つの調査地で二位となっている。兵庫は全体の四位、調査地別では龍河洞、桂浜などで多くなっている (P25 : 参考 5)。

(図 4-5) ブロック別・中国(%)



()内の数値は 25 年

前年と比べ、広島が 5.7 ポイント、山口が 0.6 ポイント、島根が 0.3 ポイント増加、岡山が 3.9 ポイント、鳥取が 2.7 ポイント減少となっている。岡山と広島の 2 県で 86.2%と、中国ブロックの大半を占めている。

岡山は全体の入込割合で七位、桂浜、龍河洞などで多くなっている。広島は全体の八位、桂浜、高知城、黒潮本陣などで多くなっている (P25 : 参考 5)。

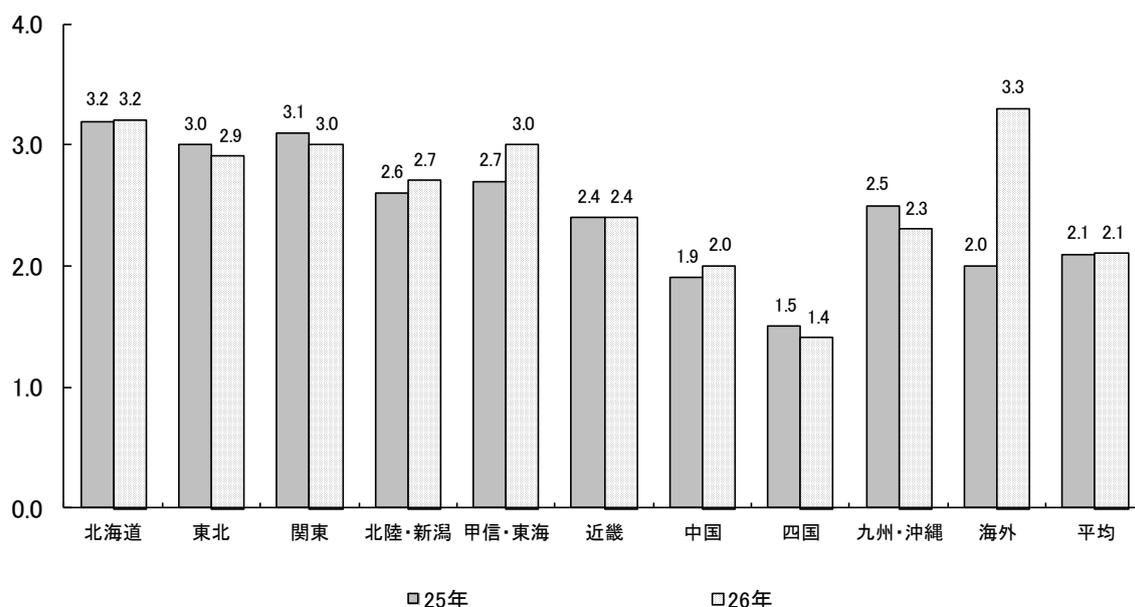
(参考5) 調査地別発地都道府県入込割合(件) [26年]

調査地		室戸岬	モネの庭	アンパンマン	龍河洞	桂浜	高知城	土佐和紙工芸村	黒潮本陣	四万十川	足摺岬	全体	順位
県外合計		266	208	238	347	354	346	225	256	286	357	2883	-
北海道・東北	北海道	1	0	3	3	3	3	1	0	3	2	19	
	青森県	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	2	
	岩手県	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	
	宮城県	2	0	0	2	0	1	0	0	1	0	6	
	秋田県	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	
	山形県	2	0	0	1	0	2	0	0	0	0	5	
	福島県	0	0	0	0	2	0	0	0	2	2	6	
北海道・東北 計		5	0	4	6	6	6	1	1	7	5	41	-
関東	茨城県	3	0	1	0	1	2	1	2	2	1	13	
	栃木県	2	1	0	0	1	1	0	0	1	2	8	
	群馬県	0	0	0	0	3	1	0	0	1	0	5	
	埼玉県	6	1	1	6	11	7	2	1	2	4	41	
	千葉県	3	2	4	8	4	5	1	2	7	11	47	
	東京都	18	13	12	19	25	22	13	13	21	34	190	6
	神奈川県	4	5	4	9	7	16	9	8	9	12	83	10
関東 計		36	22	22	42	52	54	26	26	43	64	387	-
北陸・新潟	新潟県	0	0	1	1	0	1	0	0	0	2	5	
	富山県	2	1	0	0	0	0	0	0	0	1	4	
	石川県	0	1	0	0	1	0	1	0	0	1	4	
	福井県	0	1	0	2	2	0	1	1	0	0	7	
北陸・新潟 計		2	3	1	3	3	1	2	1	0	4	20	-
甲信・東海	山梨県	1	0	2	0	0	1	0	0	1	4	9	
	長野県	3	2	2	0	4	2	0	0	1	1	15	
	岐阜県	3	2	0	0	3	2	1	3	1	6	21	
	静岡県	2	1	1	4	2	2	1	1	3	3	20	
	愛知県	6	7	2	14	18	14	2	4	14	22	103	9
甲信・東海 計		15	12	7	18	27	21	4	8	20	36	168	-
近畿	三重県	3	1	1	5	6	3	0	0	2	2	23	
	滋賀県	1	0	1	4	4	2	0	3	5	6	26	
	京都府	5	4	3	14	15	4	6	9	3	12	75	11
	大阪府	39	19	15	44	38	31	28	28	52	49	343	2
	兵庫県	28	9	13	38	36	32	20	23	28	22	249	4
	奈良県	6	3	2	5	4	8	1	1	7	4	41	
	和歌山県	1	0	1	1	2	2	0	1	1	0	9	
近畿 計		83	36	36	111	105	82	55	65	98	95	766	-
中国	鳥取県	0	0	1	0	2	4	0	0	0	2	9	
	島根県	1	0	1	3	6	7	1	0	1	1	21	
	岡山県	16	14	24	26	30	23	9	21	8	14	185	7
	広島県	11	11	15	19	24	23	17	23	22	19	184	8
	山口県	3	2	3	4	4	4	5	0	2	2	29	
中国 計		31	27	44	52	66	61	32	44	33	38	428	-
四国	徳島県	45	23	25	28	14	31	9	12	6	18	211	5
	香川県	26	40	39	48	25	30	31	42	18	33	332	3
	愛媛県	19	39	55	34	27	44	56	54	48	43	419	1
四国 計		90	102	119	110	66	105	96	108	72	94	962	-
九州・沖縄	福岡県	3	2	1	2	11	7	6	1	6	12	51	
	佐賀県	0	0	0	0	0	0	0	1	2	1	4	
	長崎県	0	0	1	0	2	0	1	0	0	1	5	
	熊本県	0	0	0	0	4	3	0	0	2	1	10	
	大分県	1	2	3	0	6	1	0	1	3	4	21	
	宮崎県	0	0	0	2	3	1	1	0	0	1	8	
	鹿児島県	0	0	0	1	2	1	0	0	0	1	5	
沖縄県	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1		
九州・沖縄 計		4	4	5	5	28	14	8	3	13	21	105	-
海外		0	2	0	0	1	2	1	0	0	0	6	-
高知県		134	192	162	53	46	54	175	144	114	43	1117	-

4 旅行日数

4.1 発地ブロック別県内旅行日数

(図 5-1) 発地ブロック別県内旅行日数(日) [26 年、25 年]



26 年の県内旅行日数の平均は、前年と同じ 2.1 日となった。発地ブロック別にみると、北陸・新潟、甲信・東海、中国で増加、東北、関東、四国、九州・沖縄で減少、北海道、近畿で横ばいとなっている（海外の項目は少数のため、分析項目としては不適当と判断し除外して比較している）。

入込上位 11 位までの都道府県別に県内旅行日数の割合をみると（参考 6）、東京は「2泊3日」が多く、神奈川、愛知、近畿（京都・大阪・兵庫）、広島は「1泊2日」が多く、岡山は「日帰り」と「1泊2日」がともに4割以上、四国は「日帰り」が大半を占めている。

都道府県別の旅行日数割合を前年と比べてみると（P27：参考 8）、京都の「1泊2日」、東京の「2泊3日」が大きく増加し、一方、愛知の「1泊2日」が大きく減少している。

(参考 6) 発地別県内旅行日数割合(%) [26 年 上位 11 位まで]

	東京都	神奈川県	愛知県	京都府	大阪府	兵庫県	岡山県	広島県	徳島県	香川県	愛媛県
日帰り	4.2	7.2	5.8	12.0	13.1	15.7	46.5	26.6	69.7	64.8	74.2
1泊2日	29.0	37.4	35.9	53.4	45.8	56.2	41.6	51.1	25.6	28.0	23.9
2泊3日	35.8	28.9	30.1	20.0	25.3	20.5	7.0	13.6	2.8	5.1	1.5
3泊4日	17.9	12.1	12.6	5.3	7.3	6.0	3.8	4.9	1.4	1.5	0.2
4泊5日	4.7	4.8	4.9	4.0	4.4	0.4	0.0	1.6	0.5	0.6	0.0
5泊6日以上	8.4	9.6	10.7	5.3	4.1	1.2	1.1	2.2	0.0	0.0	0.2

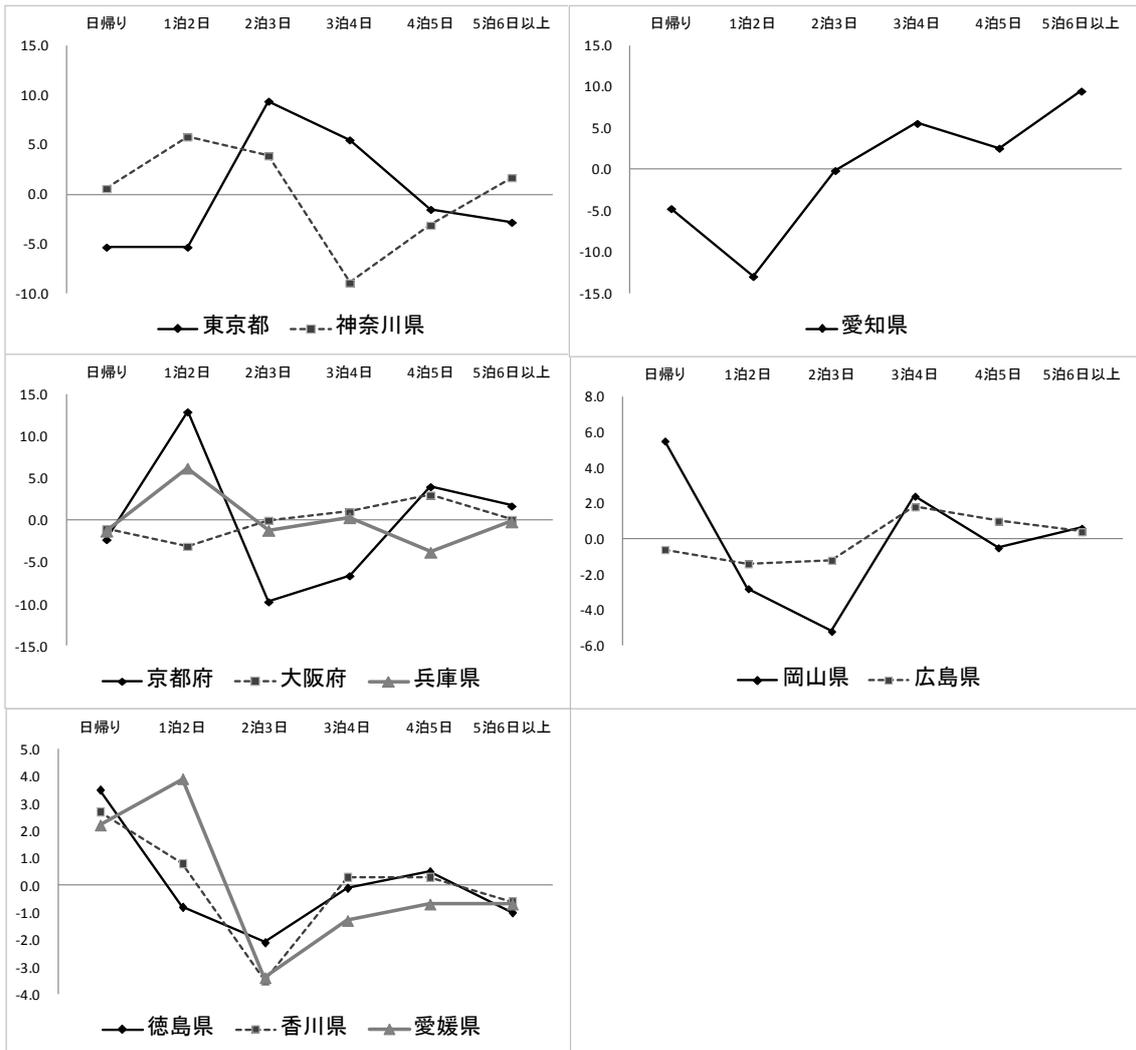
(参考 7) 発地別県内旅行日数割合(%) [25 年 上位 11 位まで]

	東京都	神奈川県	愛知県	京都府	大阪府	兵庫県	岡山県	広島県	徳島県	香川県	愛媛県
日帰り	9.5	6.6	10.5	14.3	14.1	17.0	41.0	27.2	66.2	62.1	72.0
1泊2日	34.3	31.6	48.8	40.5	48.9	50.0	44.4	52.5	26.4	27.2	20.0
2泊3日	26.4	25.0	30.2	29.7	25.3	21.7	12.2	14.8	4.9	8.6	4.9
3泊4日	12.4	21.0	7.0	11.9	6.3	5.7	1.4	3.1	1.5	1.2	1.5
4泊5日	6.2	7.9	2.3	0.0	1.4	4.2	0.5	0.6	0.0	0.3	0.7
5泊6日以上	11.2	7.9	1.2	3.6	4.0	1.4	0.5	1.8	1.0	0.6	0.9

(参考 8) 発地別県内旅行日数割合(%) [26 年と 25 年の差]

	東京都	神奈川県	愛知県	京都府	大阪府	兵庫県	岡山県	広島県	徳島県	香川県	愛媛県
日帰り	-5.3	0.6	-4.7	-2.3	-1.0	-1.3	5.5	-0.6	3.5	2.7	2.2
1泊2日	-5.3	5.8	-12.9	12.9	-3.1	6.2	-2.8	-1.4	-0.8	0.8	3.9
2泊3日	9.4	3.9	-0.1	-9.7	0.0	-1.2	-5.2	-1.2	-2.1	-3.5	-3.4
3泊4日	5.5	-8.9	5.6	-6.6	1.0	0.3	2.4	1.8	-0.1	0.3	-1.3
4泊5日	-1.5	-3.1	2.6	4.0	3.0	-3.8	-0.5	1.0	0.5	0.3	-0.7
5泊6日以上	-2.8	1.7	9.5	1.7	0.1	-0.2	0.6	0.4	-1.0	-0.6	-0.7

(参考 9) 発地別県内旅行日数割合(%) [26 年と 25 年の差]



4.2 年代別旅行日数

(表 5-2) 年代別県内旅行日数〔加重平均〕(日)〔26年、過去4年間〕

年代 \ 年	22年	23年	24年	25年	26年
10代	2.0	2.1	2.7	2.0	2.9
20代	1.9	2.1	2.0	2.1	2.1
30代	2.0	2.0	2.0	2.2	2.1
40代	2.0	2.1	2.1	2.2	2.2
50代	1.8	1.9	1.9	2.0	2.1
60代以上	1.9	2.1	2.0	2.1	2.0
全体	1.9	2.0	2.0	2.1	2.1

年代別の県内旅行日数は、前年と比べ、10代で0.9日、50代で0.1日増加しており、30代、60代以上で0.1日減少し、20代、40代で横ばいとなっている。

5 旅行形態別旅行目的割合

(表 6-1) 旅行形態別旅行目的割合(%) [26 年、過去 2 年間]

		自然見物 ・町歩き	名所旧跡 観光施設	休養・慰安	食べ物	神仏 霊場巡り	その他
1人	24年 (n=262)	14.9	21.4	3.4	1.9	4.6	53.8
	25年 (n=275)	25.5	11.6	3.3	5.1	8.0	46.5
	26年 (n=283)	19.1	17.7	3.2	5.6	9.5	44.9
家族	24年 (n=1842)	17.1	34.5	7.1	10.1	3.3	27.9
	25年 (n=1969)	22.1	31.4	5.7	13.3	2.9	24.6
	26年 (n=2010)	17.2	35.4	3.5	16.4	3.4	24.1
友人 知人	24年 (n=588)	18.9	22.6	9.4	11.2	1.5	36.4
	25年 (n=532)	27.1	19.7	4.7	19.2	2.4	26.9
	26年 (n=535)	19.6	23.7	4.9	24.1	2.6	25.1
団体	24年 (n=79)	8.9	25.3	15.2	5.1	0.0	45.5
	25年 (n=58)	24.1	20.7	6.9	10.3	6.9	31.1
	26年 (n=39)	17.9	33.3	7.7	30.7	0.0	10.4
その他	24年 (n=98)	18.4	19.4	6.1	17.4	1.0	37.7
	25年 (n=39)	10.3	10.2	7.7	25.6	2.6	43.6
	26年 (n=17)	5.9	11.7	5.9	23.5	5.9	47.1
全体	24年 (n=2869)	17.1	30.1	7.4	9.7	2.9	32.8
	25年 (n=2873)	23.2	26.9	5.4	13.7	3.4	27.4
	26年 (n=2884)	17.7	31.3	3.8	17.0	3.9	26.3

旅行目的の全体割合をみると、「名所旧跡」が前年から 4.4 ポイント増加の 31.3%と最も多く、次いで「自然見物」が 5.5 ポイント減少の 17.7%、「食べ物」が 3.3 ポイント増加の 17.0%となっており、その他の項目では、「帰省・仕事」が 2.9 ポイント増加の 12.7%、「なんとなく（ドライブを含む）」が 0.2 ポイント増加の 5.7% (P30：参考 10) となっている。

旅行形態別に旅行目的を前年と比べると、“一人旅”では、「名所旧跡」が 6.1 ポイント増加し、「自然見物」が 6.4 ポイント減少となっている。“家族旅行”と“友人・知人との旅行”では、「名所旧跡」が 4.0 ポイント増加となり、“団体”では、「食べ物」が 20.4 ポイント増加となっている。

(参考 10) 旅行形態別旅行目的割合(%) [26 年、過去 2 年間 全項目]

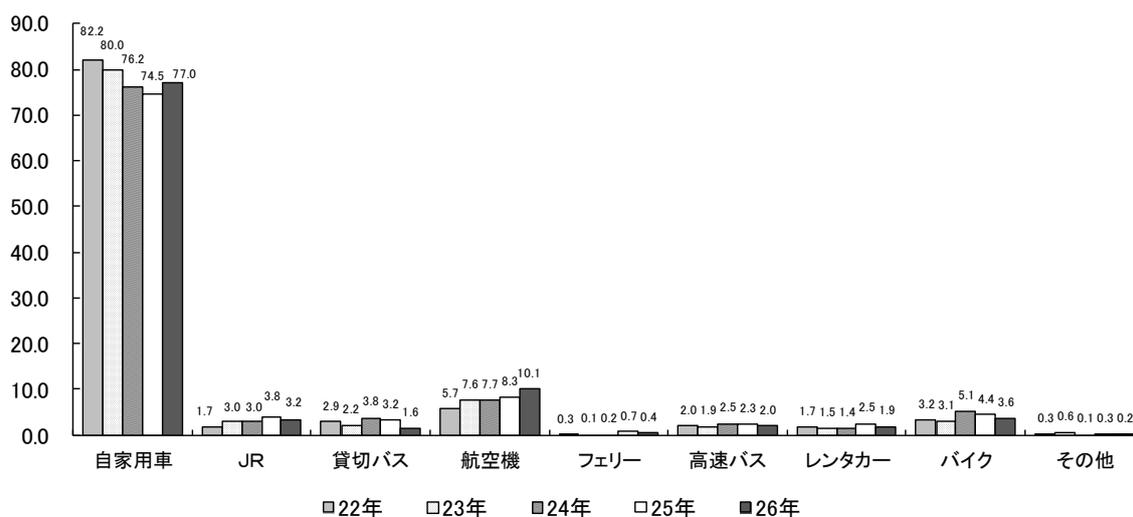
		自然見物 ・町歩き	休養・慰安	イベント	アウトドア	スポーツ	食べ物	神仏 霊場巡り	買い物	名所旧跡 観光施設	なんとなく	帰省・仕事	その他
1人	24年	14.9	3.4	5.3	2.3	1.1	1.9	4.6	0.0	21.4	17.6	21.0	6.5
	25年	25.5	3.3	4.3	4.0	4.3	5.1	8.0	0.4	11.6	11.6	18.6	3.3
	26年	19.1	3.2	1.1	5.3	0.7	5.6	9.5	1.8	17.7	11.3	22.2	2.5
家族	24年	17.1	7.1	4.2	2.3	0.2	10.1	3.3	2.2	34.5	6.3	9.9	2.8
	25年	22.1	5.7	2.4	4.4	0.6	13.3	2.9	1.6	31.4	3.5	10.5	1.6
	26年	17.2	3.5	1.1	2.7	0.2	16.4	3.4	2.4	35.4	3.5	13.4	0.8
友人 知人	24年	18.9	9.4	5.9	3.1	1.4	11.2	1.5	1.0	22.6	15.1	5.3	4.6
	25年	27.1	4.7	4.9	5.6	0.9	19.2	2.4	0.6	19.7	9.8	3.0	2.1
	26年	19.6	4.9	1.3	5.1	1.1	24.1	2.6	1.1	23.7	11.2	4.7	0.6
団体	24年	8.9	15.2	1.3	1.3	2.5	5.1	0.0	1.2	25.3	12.7	20.2	6.3
	25年	24.1	6.9	5.2	3.5	17.2	10.3	6.9	0.0	20.7	0.0	1.7	3.5
	26年	17.9	7.7	2.6	2.6	0.0	30.7	0.0	0.0	33.3	2.6	2.6	0.0
その他	24年	18.4	6.1	11.2	3.1	1.0	17.4	1.0	0.0	19.4	16.3	1.0	5.1
	25年	10.3	7.7	2.6	2.6	5.1	25.6	2.6	0.0	10.2	12.8	20.5	0.0
	26年	5.9	5.9	0.0	0.0	0.0	23.5	5.9	0.0	11.7	5.9	35.3	5.9
全体	24年	17.1	7.4	4.8	2.4	0.6	9.7	2.9	1.6	30.1	9.7	10.0	3.7
	25年	23.2	5.4	3.1	4.6	1.4	13.7	3.4	1.2	26.9	5.5	9.8	1.8
	26年	17.7	3.8	1.1	3.4	0.4	17.0	3.9	2.1	31.3	5.7	12.7	0.9

6 入込利用交通機関割合

(表 7-1) 入込利用交通機関別割合(上段:件 下段:%) [26 年、過去 4 年間]

	自家用車	JR	貸切バス	航空機	フェリー	高速バス	レンタカー	バイク	その他
22年 (n=2967)	2439 82.2	51 1.7	87 2.9	168 5.7	8 0.3	60 2.0	49 1.7	95 3.2	10 0.3
23年 (n=2929)	2344 80.0	86 3.0	65 2.2	221 7.6	4 0.1	56 1.9	45 1.5	91 3.1	17 0.6
24年 (n=2869)	2186 76.2	86 3.0	108 3.8	222 7.7	5 0.2	70 2.5	41 1.4	147 5.1	4 0.1
25年 (n=2873)	2140 74.5	110 3.8	91 3.2	239 8.3	19 0.7	66 2.3	73 2.5	127 4.4	8 0.3
26年 (n=2883)	2220 77.0	94 3.2	46 1.6	291 10.1	12 0.4	57 2.0	54 1.9	103 3.6	6 0.2

(図 7-2) 入込利用交通機関別割合(%) [26 年、過去 4 年間]



主要観光地における入込利用交通機関は、前年と比べ、「自家用車」が 2.5 ポイント増加の 77.0% となり大半を占めている。一方で、「航空機」が 1.8 ポイント増加の 10.1%、「貸切バス」が 1.6 ポイント減少の 1.6%、「バイク」が 0.8 ポイント減少の 3.6%、「JR」が 0.6 ポイント減少の 3.2%、「レンタカー」が 0.6 ポイント減少の 1.9% となっている。

7 旅行形態割合

(表 8-1) 年代別旅行形態割合(%) [26 年、25 年]

		1人	家族	友人知人	団体	その他
10 代	25年 (n=31)	9.7	80.6	6.5	3.2	0.0
	26年 (n=29)	10.3	72.4	17.3	0.0	0.0
20 代	25年 (n=404)	10.1	37.1	47.8	1.5	3.5
	26年 (n=466)	10.7	36.7	51.5	1.1	0.0
30 代	25年 (n=688)	9.6	70.8	16.0	1.6	2.0
	26年 (n=680)	8.1	71.0	19.0	1.2	0.7
40 代	25年 (n=672)	10.3	74.3	12.8	1.9	0.7
	26年 (n=666)	10.1	77.9	10.4	1.2	0.4
50 代	25年 (n=497)	10.9	74.2	13.9	1.0	0.0
	26年 (n=501)	10.8	78.0	7.8	2.4	1.0
60代以上	25年 (n=581)	7.2	75.6	12.4	3.8	1.0
	26年 (n=542)	10.0	78.4	9.8	1.1	0.7
全 体	25年 (n=2873)	9.6	68.5	18.5	2.0	1.4
	26年 (n=2884)	9.8	69.7	18.5	1.4	0.6

(表 8-2) 年代別同行者数割合(%) [26 年、25 年]

		1人	2~3人	4~5人	6~10人	11人以上
10 代	25年 (n=31)	9.7	38.7	35.5	9.7	6.4
	26年 (n=29)	10.3	41.4	48.3	0.0	0.0
20 代	25年 (n=404)	10.2	70.0	14.6	4.5	0.7
	26年 (n=466)	10.7	73.0	11.8	3.6	0.9
30 代	25年 (n=688)	9.6	54.9	28.9	5.7	0.9
	26年 (n=680)	8.1	56.6	27.6	6.8	0.9
40 代	25年 (n=672)	10.3	56.3	26.9	5.8	0.7
	26年 (n=666)	10.1	52.8	30.2	5.7	1.2
50 代	25年 (n=497)	10.9	65.4	17.1	6.0	0.6
	26年 (n=500)	10.8	65.6	16.6	5.4	1.6
60代以上	25年 (n=581)	7.2	62.7	14.8	11.2	4.1
	26年 (n=542)	9.9	65.7	15.9	7.0	1.5
全 体	25年 (n=2873)	9.6	60.6	21.6	6.7	1.5
	26年 (n=2883)	9.8	61.5	21.7	5.8	1.2

(参考 11) 年代別旅行形態・同行者数割合(件) [26 年]

	1人	家族				友人知人				団体				その他			
		2~3人	4~5人	6~10人	11人以上												
10代	3	9	12			3	2										
20代	50	128	32	10	1	209	23	6	2	3			1	1			
30代	55	272	175	34	2	107	12	8	2	1	1	4	2	5			
40代	67	294	188	34	3	55	11	3		3	1		4		1	1	1
50代	54	297	76	15	3	28	4	7		2	1	4	5	2	2	1	
60代以上	54	324	69	31	1	29	16	6	2			1	1	4	3		1

(参考 12) 年代別旅行形態・同行者数割合(%) [26 年と 25 年の差]

	1人	家族				友人知人				団体				その他			
		2~3人	4~5人	6~10人	11人以上												
10代	0.7	-1.2	5.9	-9.7	-3.2	3.9	6.9							-3.2			
20代	0.6	3.0	-2.5	-1.1	0.2	3.3	0.2	0.0	0.2	0.1	-0.5	0.2	-0.3	-3.5			
30代	-1.5	0.8	-1.3	0.6	0.1	2.4	0.0	0.3	0.3	-0.3	0.0	0.2	-0.3	-1.2			-0.1
40代	-0.2	-1.2	4.0	0.5	0.5	-1.7	-0.6	-0.1		0.0	-0.1	-0.4	-0.1	-0.4	0.0	0.0	0.2
50代	-0.1	1.7	2.5	-1.0	0.6	-2.3	-3.6	-0.2		0.4	0.2	0.4	0.4	0.4	0.4	0.2	
60代以上	2.7	5.0	-0.4	-1.7	-0.2	-1.9	1.2	-1.6	-0.3	-0.3	0.2	-0.7	-1.8	0.2		-0.2	-0.3

※ 各年代ごとに合計 100%になるよう割合を算出し、26 年の割合から 25 年の割合を差し引いたもの。

旅行形態割合は前年と比べ、全体では「家族」が 1.2 ポイント増加の 69.7%、「1人」が 0.2 ポイント増加の 9.8%となり、「その他」が 0.8 ポイント減少の 0.6%、「団体」が 0.6 ポイント減少の 1.4%となり、「友人知人」が横ばいとなっている。

同行者数割合は前年と比べ、全体では「2~3人」が 0.9 ポイント増加の 61.5%、「1人」が 0.2 ポイント増加の 9.8%、「4~5人」が 0.1 ポイント増加の 21.7%となり、「6~10人」が 0.9 ポイント減少の 5.8%、「11人以上」が 0.3 ポイント減少の 1.2%となっている。

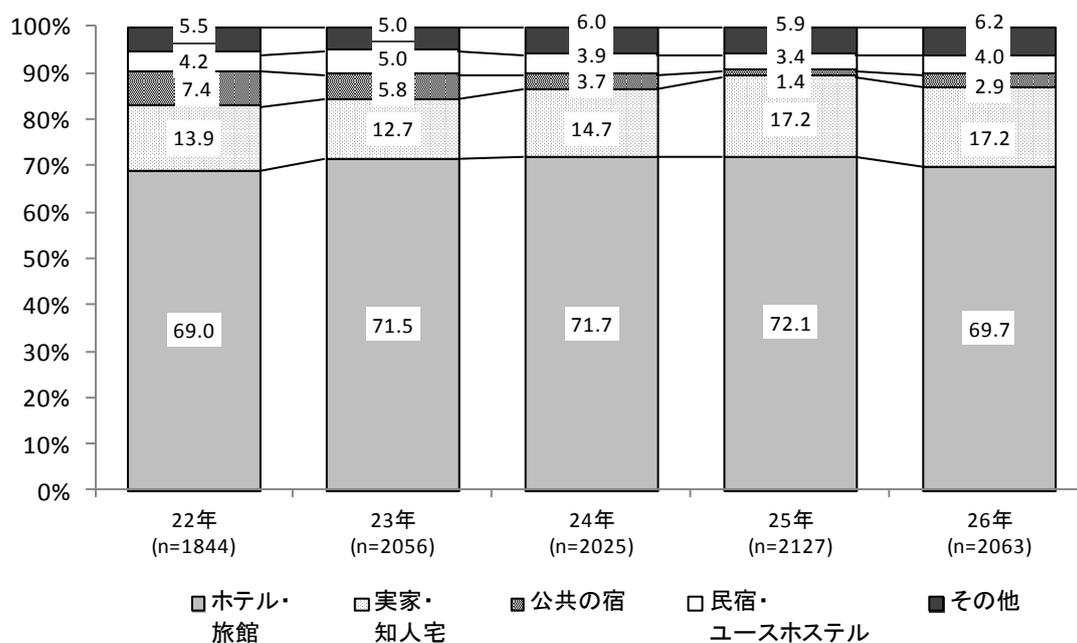
年代別に旅行形態と同行者数の関係を見ると(参考 11)、10代では「4~5人」の家族旅行が大半を占め、20代で多い組み合わせは「2~3人」の友人知人との旅行、または「2~3人」の家族旅行となっている。30代は「2~3人」の家族旅行が多く、次に「4~5人」の家族旅行、「2~3人」の友人知人との旅行と続いている。40代は「2~3人」、「4~5人」の家族旅行が大半、50代と60代以上は「2~3人」の家族旅行が大半を占めている。

前年との差をみると、10代の「4~5人」の友人知人との旅行が 6.9 ポイント、家族旅行が 5.9 ポイント増加、60代以上の「2~3人」の家族旅行が 5.0 ポイント増加している。一方で、10代の「6~10人」の家族旅行が 9.7 ポイント減少、20代の「2~3人」のその他旅行が 3.5 ポイント減少となっている。

8 宿泊施設割合

8.1 年間

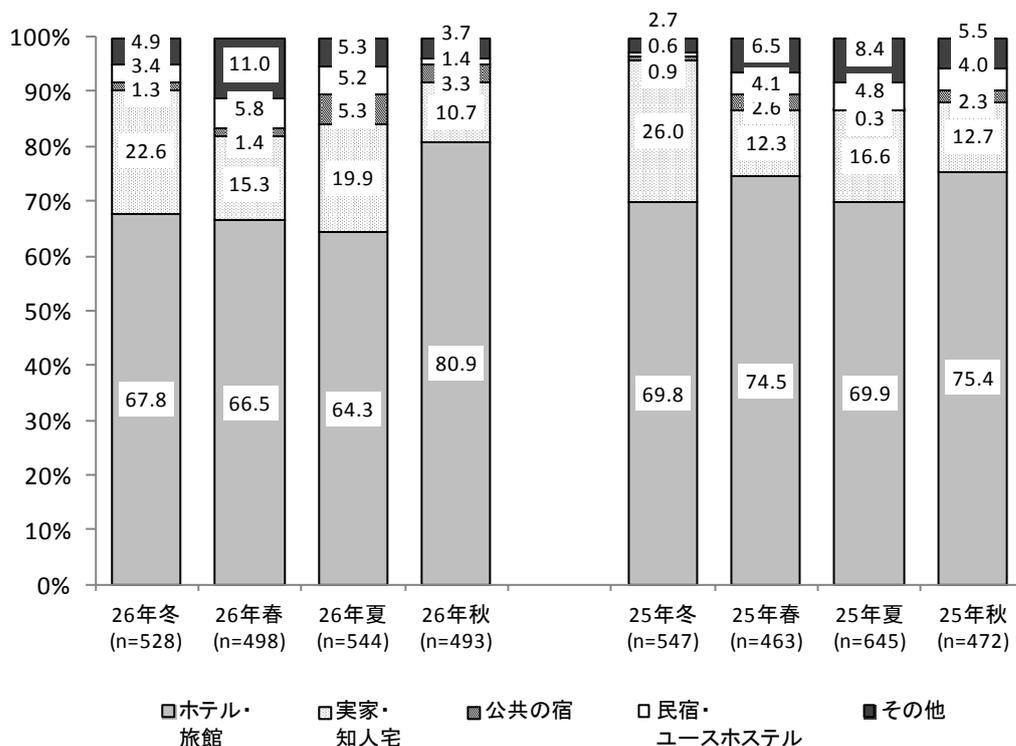
(図 9-1) 県内利用宿泊施設割合(%) [26 年、過去 4 年間]



県内で利用された宿泊施設の割合は、「ホテル・旅館」が 69.7%で最も多くなった。次いで「実家・知人宅」が 17.2%、「民宿・ユースホステル」が 4.0%、「公共の宿」が 2.9%、「その他」が 6.2%となっている。

8.2 四季別

(図 9-2) 四季別県内利用宿泊施設割合(%) [26 年、25 年]



四季別県内利用宿泊施設の割合をみると、「ホテル・旅館」の占める割合が年間を通じて最も多くなっている。

前年と比べると、冬期は「民宿・ユースホステル」の割合が 2.8 ポイント、「その他」が 2.2 ポイント増加、「実家・知人宅」が 3.4 ポイント、「ホテル・旅館」が 2.0 ポイント減少している。

春期は「その他」が 4.5 ポイント、「実家・知人宅」が 3.0 ポイント増加、「ホテル・旅館」が 8.0 ポイント、「公共の宿」が 1.2 ポイント減少している。

夏期は「公共の宿」が 5.0 ポイント、「実家・知人宅」が 3.3 ポイント増加、「ホテル・旅館」が 5.6 ポイント、「その他」が 3.1 ポイント減少している。

秋期は「ホテル・旅館」が 5.5 ポイント、「公共の宿」が 1.0 ポイント増加し、「民宿・ユースホステル」が 2.6 ポイント、「実家・知人宅」が 2.0 ポイント減少している。

8.3 年代別宿泊施設割合

(表 9-3) 年代別県内利用宿泊施設割合(%) [26 年、25 年]

		ホテル・旅館	実家・知人宅	公共の宿	民宿・ユースホステル	その他
10 代	25年 (n=19)	68.4	21.1	0.0	0.0	10.5
	26年 (n=20)	35.0	55.0	0.0	5.0	5.0
20 代	25年 (n=292)	69.9	24.3	0.0	1.4	4.4
	26年 (n=333)	66.4	21.3	2.4	4.5	5.4
30 代	25年 (n=508)	70.3	18.9	0.8	3.1	6.9
	26年 (n=474)	65.6	21.1	2.7	3.6	7.0
40 代	25年 (n=527)	71.2	17.1	0.2	4.3	7.2
	26年 (n=507)	69.0	17.4	1.6	4.7	7.3
50 代	25年 (n=343)	73.5	17.2	0.9	4.3	4.1
	26年 (n=358)	74.6	13.1	3.9	3.4	5.0
60代以上	25年 (n=438)	76.0	10.5	5.0	3.2	5.3
	26年 (n=371)	76.0	10.5	4.3	3.5	5.7

年代別利用宿泊施設割合を前年と比べると、「ホテル・旅館」の割合は、10代が33.4ポイント、30代が4.7ポイント減少している。「実家・知人宅」は、10代が33.9ポイント、30代が2.2ポイント増加している。「公共の宿」は50代が3.0ポイント、40代が1.4ポイント増加している。「民宿・ユースホステル」は、20代が3.1ポイント増加し、50代が0.9ポイント減少している。

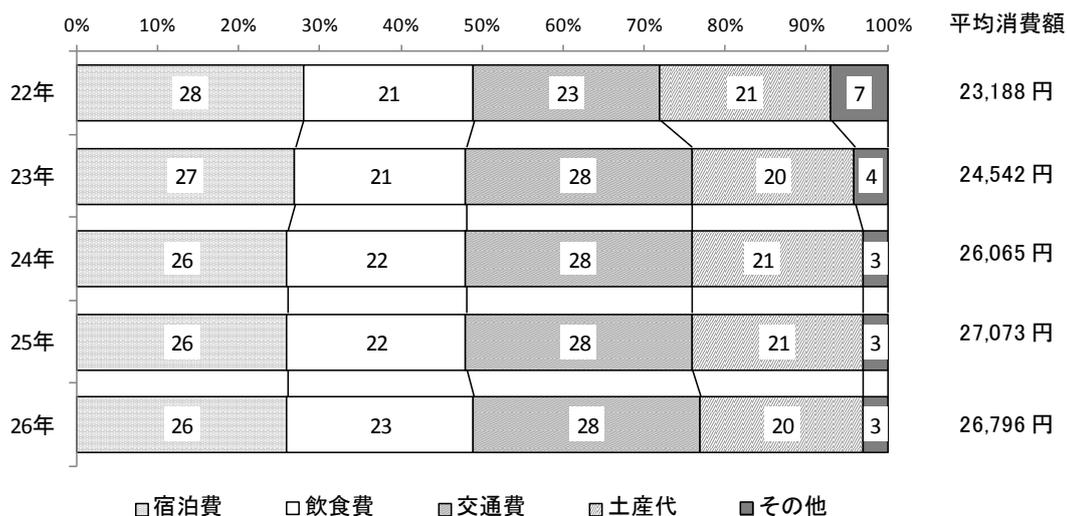
サンプル数の少ない10代を除く年代では、前年比で10ポイント以上の増減はなく、前年と同様の傾向となっている。

9 県内消費額

9.1 県内消費額費目別割合・平均消費額

9.1.1 年間

(図 10-1) 県内消費額費目別割合(%)、同平均消費額(円) [26 年、過去 4 年間]



(参考 13) 県内平均消費額費目別内訳(円) [26 年、過去 2 年間]

	宿泊費	飲食費	交通費	土産代	その他
24年	6,679	5,858	7,315	5,458	755
25年	7,028	5,923	7,608	5,683	831
26年	7,047	6,253	7,383	5,210	903

県内消費額の年間平均金額は、前年と比べ 277 円の減少の 26,796 円となっている。費目別で見ると、「宿泊費」、「飲食費」が最高となっている。割合を前年と比べた場合は、いずれの費目もほぼ横ばいで大きな変化はなかった。

費目別の平均消費額(参考 13)をみると、「飲食費」が 330 円、「その他」が 72 円、「宿泊費」が 19 円増加し、「土産代」が 473 円、「交通費」が 225 円減少となっている。

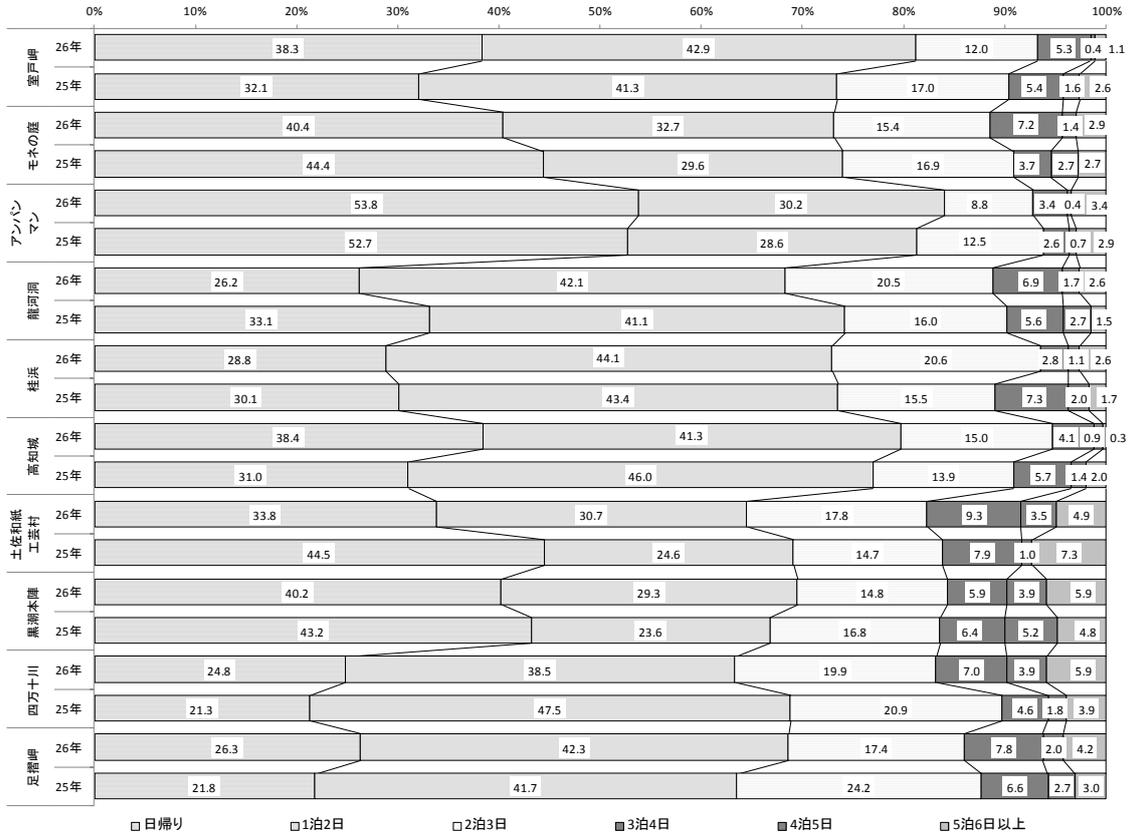
(参考) 動態調査による県外観光客一人当たりの県内消費額及び経済波及効果

	H26	H25	H24	H23	H22	(H22～26平均)
県外観光客総数(人)	4,012,614	4,071,766	3,839,714	3,882,268	4,359,415	4,033,155
県外観光客一人当たり消費額(円)	26,796	27,073	26,064	24,542	23,188	25,533
<内訳> 宿泊費	7,047	7,028	6,679	6,540	6,490	6,757
飲食費	6,253	5,923	5,858	5,064	4,948	5,609
交通費	7,383	7,608	7,315	6,990	5,345	6,928
土産	5,210	5,683	5,458	4,911	4,909	5,234
その他	903	831	754	1,037	1,496	1,004
県外観光客の総消費額(百万円)	107,522	110,234	100,078	95,278	101,086	102,840
生産誘発効果(百万円)	163,263	167,434	152,004	144,705	153,421	156,165
生産誘発倍率(倍)	1.52	1.52	1.52	1.52	1.52	1.52

(参考 14) 調査地別県内平均消費額(円) [26 年、25 年]

調査地	室戸岬	モネの庭	アンパンマン	龍河洞	桂浜	高知城	土佐和紙工芸村	黒潮本陣	四万十川	足摺岬
25年	26,304	24,196	23,245	25,557	30,178	27,978	22,312	23,729	33,001	31,864
26年	24,837	23,903	20,551	29,782	29,109	27,794	24,668	21,413	31,556	29,908
前年との差	▲ 1,467	▲ 293	▲ 2,694	4,225	▲ 1,069	▲ 184	2,356	▲ 2,316	▲ 1,445	▲ 1,956

(参考 15) 調査地別日帰り客・宿泊客割合(%) [26 年、25 年]



調査地別の年間平均消費額は(参考 14)、「四万十川」が 31,556 円で最も高く、「アンパンマンミュージアム」が 20,551 円で最も低くなった。

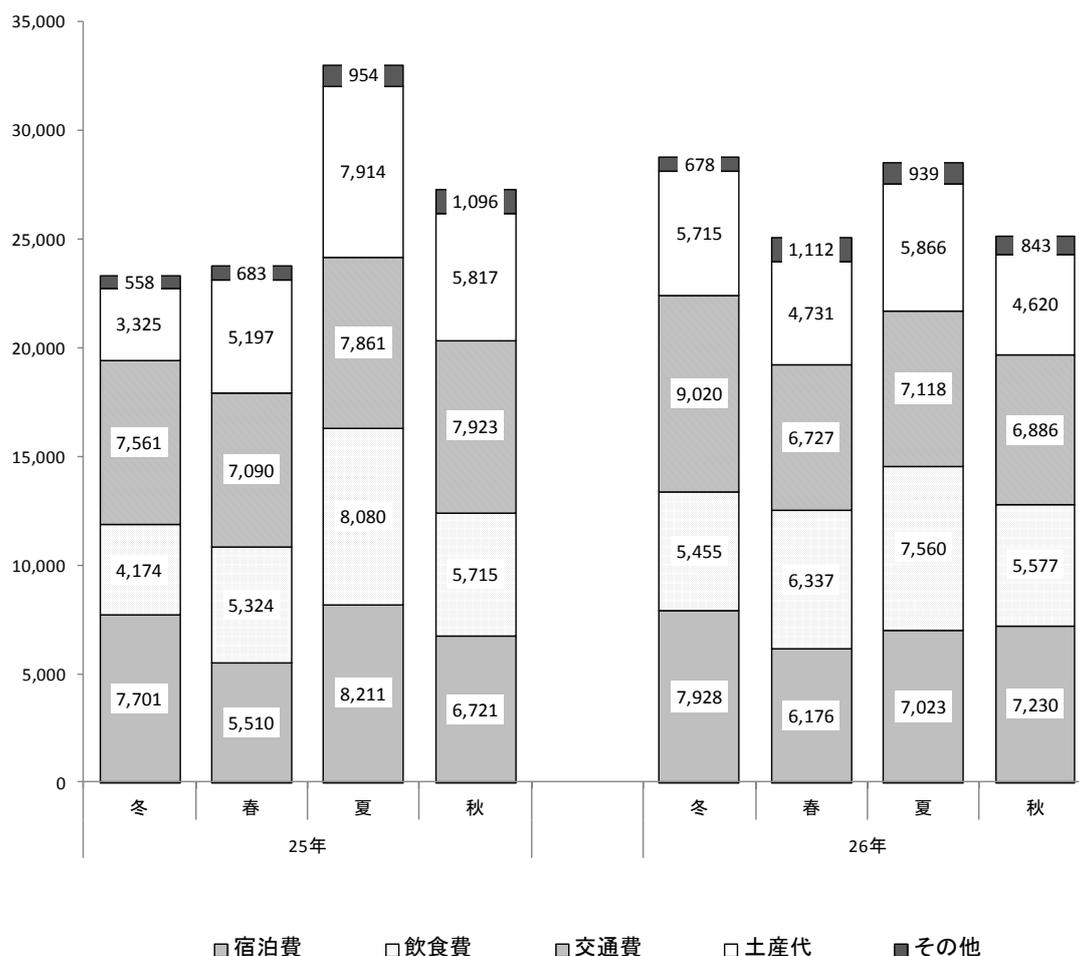
前年と比べると、「土佐和紙工芸村」と「龍河洞」は日帰り客の割合が減少し、宿泊客が増加している(参考 15)。それが、平均消費額を引き上げた要因になっていると思われる。

9.1.2 四季別

(表 10-2) 四季別県内消費額費目別割合(%)、同平均消費額(円) [26 年、25 年]

		宿泊費	飲食費	交通費	土産代	その他	平均消費額	前年差
冬	25年	33	18	32	14	2	23,319	5,477円
	26年	28	19	31	20	2	28,796	
春	25年	23	22	30	22	3	23,804	1,279円
	26年	25	25	27	19	4	25,083	
夏	25年	25	24	24	24	3	33,020	▲ 4,514円
	26年	25	26	25	21	3	28,506	
秋	25年	25	21	29	21	4	27,272	▲ 2,116円
	26年	29	22	28	18	3	25,156	

(図 10-3) 四季別県内消費額費目別平均消費額(円) [26 年、25 年]



四季別の平均消費額を前年と比べると、冬期は5,477円、春期は1,279円増加し、夏期は4,514円、秋期は2,116円減少している。

それぞれの費目で割合が最も多くなった時期は、「交通費」が冬期、「その他」が春期、「飲食費」と「土産代」が夏期、「宿泊費」が秋期となっている。また、それぞれの費目の消費額が最も高くなった時期は、「宿泊費」、「交通費」が冬期、「その他」が春期、「飲食費」、「土産代」が夏期となっている。

9.2 年代別費目割合・平均消費額

(表 10-4) 年代別県内消費額費目別割合(%)、同平均消費額(円) [26 年、25 年]

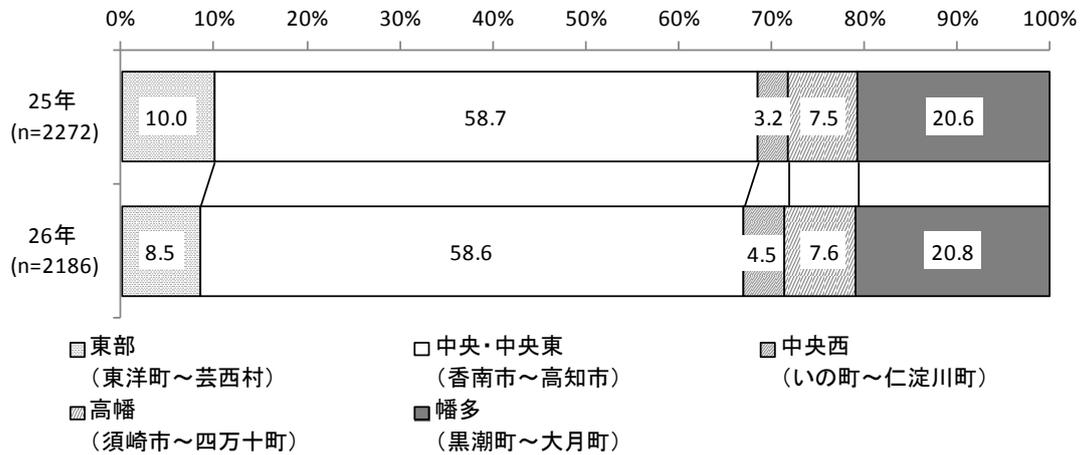
		宿泊費	飲食費	交通費	土産代	その他	平均金額	前年差
10 代	25年	25	21	26	20	9	22,200円	▲ 2,452円
	26年	18	19	41	20	2	19,748円	
20 代	25年	22	23	32	19	4	24,297円	▲ 828円
	26年	27	22	31	16	4	23,469円	
30 代	25年	25	23	28	20	3	27,682円	▲ 2,901円
	26年	25	24	28	19	4	24,782円	
40 代	25年	27	22	28	19	3	27,722円	392円
	26年	26	24	28	19	3	28,114円	
50 代	25年	27	21	27	23	3	25,526円	3,474円
	26年	27	25	27	18	3	29,000円	
60代以上	25年	28	19	27	24	2	29,298円	▲ 236円
	26年	28	21	25	23	3	29,062円	

年代別の平均消費額は、前年と比べると 50 代が 3,474 円増加しているのが目立っている。

費目別の割合を前年と比べると、「宿泊費」は 20 代が増加、10 代、40 代が減少、その他の年代が横ばいとなっている。「飲食費」は 30 代以上が増加、20 代以下が減少している。「交通費」は 10 代が増加、20 代と 60 代が減少、その他の年代で横ばいとなっている。「土産代」は 10 代、40 代で横ばいとなり、その他の年代で減少している。「その他」は 30 代と 60 代以上が増加、10 代が減少、その他の年代で横ばいとなっている。

10 宿泊地域割合

(図 11-1) 県内宿泊地域割合(%) [26 年、25 年]



県内での宿泊地域の割合は、前年と比べ、「中央・中央東」が 0.1 ポイント減少の 58.6% で最も多くなっている。次いで「幡多」が 0.2 ポイント増加の 20.8%、「東部」が 1.5 ポイント減少の 8.5%、「高幡」が 0.1 ポイント増加の 7.6%、「中央西」が 1.3 ポイント増加の 4.5%となっている。

(表 11-2) 調査地別県内宿泊地域割合(%) [26 年]

	東部	中央東	中央	中央西	高幡	幡多
室戸岬	27.8	10.2	51.3	2.7	4.3	3.7
モネの庭	41.3	6.8	45.8	2.3	2.3	1.5
アンパンマン	8.5	13.7	60.7	5.1	6.0	6.0
龍河洞	6.2	13.4	67.4	3.6	4.3	5.1
桂浜	6.5	5.7	73.9	3.2	3.2	7.5
高知城	3.0	3.4	79.7	2.5	4.2	7.2
土佐和紙工芸村	2.4	1.2	57.0	26.1	7.9	5.4
黒潮本陣	2.2	2.8	41.6	5.1	28.1	20.2
四万十川	1.2	1.6	26.8	0.8	9.3	60.3
足摺岬	4.5	2.2	31.1	1.7	8.4	52.1
全体	8.5	5.7	52.9	4.5	7.6	20.8

※背景色＋太字は調査地ごとの上位2位まで。

(表 11-3)調査地別県内利用宿泊施設割合(%) [26 年]

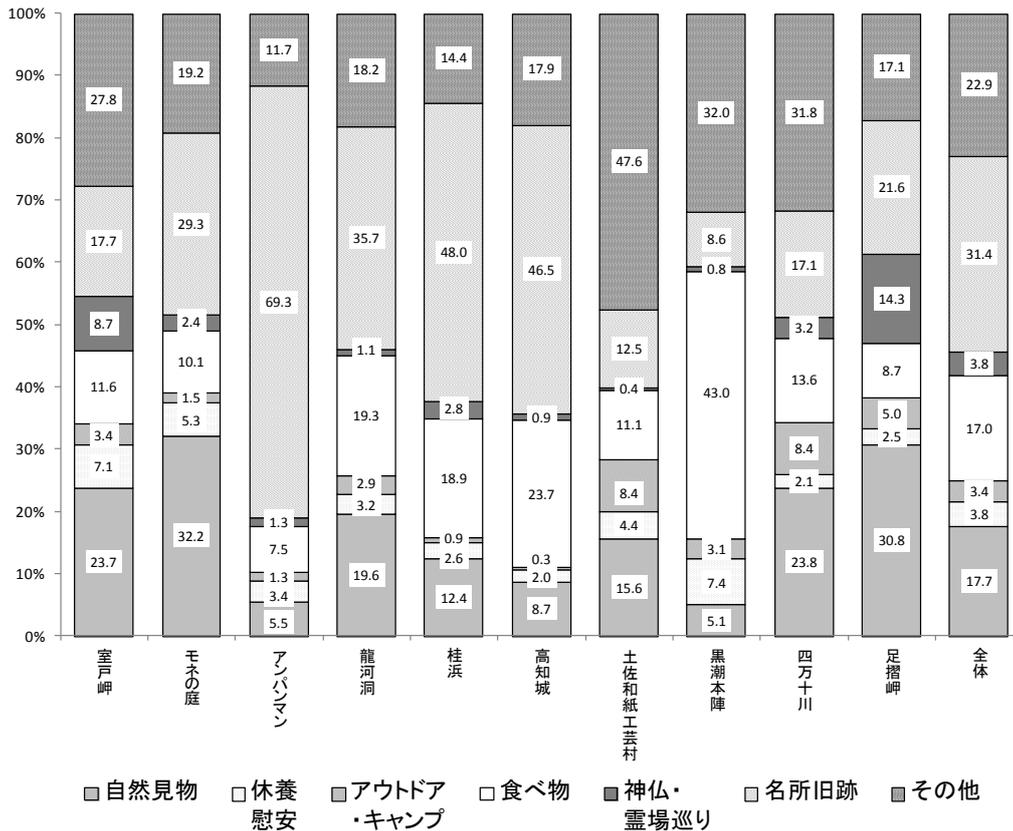
	ホテル・旅館	実家・知人宅	公共の宿	民宿・ ユースホステル	その他
室戸岬	78.2	12.9	1.2	1.8	5.9
モネの庭	69.8	23.0	3.6	1.4	2.2
アンパンマン	71.9	20.2	7.0	0.9	0.0
龍河洞	69.2	18.3	0.4	5.1	7.0
桂浜	85.5	8.8	1.1	1.9	2.7
高知城	84.5	8.8	2.7	0.9	3.1
土佐和紙工芸村	49.7	32.1	3.0	5.5	9.7
黒潮本陣	46.7	31.7	7.8	3.6	10.2
四万十川	64.1	21.0	2.0	5.6	7.3
足摺岬	67.9	9.3	3.7	8.7	10.4
全体	69.7	17.2	2.9	4.0	6.2

※背景色＋太字は調査地ごとの上位2位まで。

11 調査地別割合

11.1 旅行目的割合

(図 12-1) 調査地別旅行目的割合(%) [26 年]



(表 12-2) 調査地別旅行目的割合(%) [26 年]

	自然見物	休養慰安	アウトドア・キャンプ	食べ物	神仏・霊場巡り	名所旧跡	その他
室戸岬	23.7	7.1	3.4	11.6	8.7	17.7	27.8
モネの庭	32.2	5.3	1.5	10.1	2.4	29.3	19.2
アンパンマン	5.5	3.4	1.3	7.5	1.3	69.3	11.7
龍河洞	19.6	3.2	2.9	19.3	1.1	35.7	18.2
桂浜	12.4	2.6	0.9	18.9	2.8	48.0	14.4
高知城	8.7	2.0	0.3	23.7	0.9	46.5	17.9
土佐和紙工芸村	15.6	4.4	8.4	11.1	0.4	12.5	47.6
黒潮本陣	5.1	7.4	3.1	43.0	0.8	8.6	32.0
四万十川	23.8	2.1	8.4	13.6	3.2	17.1	31.8
足摺岬	30.8	2.5	5.0	8.7	14.3	21.6	17.1
全体	17.7	3.8	3.4	17.0	3.8	31.4	22.9

※背景色+太字は調査地ごとの上位2位まで。

「室戸岬」、「土佐和紙工芸村」、「四万十川」は“その他”が最も多く、次いで“自然見物”が多くなっている。「室戸岬」はドライブの際に、「土佐和紙工芸村」と「四万十川」は帰省・知人訪問の際に、調査地点を訪れた旅行者が比較的多く見られる。

「モネの庭」は“自然見物”が最も多く、次いで“名所旧跡”が多くなっている。“自然見物”では室戸岬、“名所旧跡”では高知市内の観光施設と合わせて訪問する旅行者が多く見られる。

「アンパンマンミュージアム」と「龍河洞」は“名所旧跡”が最も多く、調査地点周辺や高知市内の観光施設と合わせて訪問する旅行者が多数見られる。

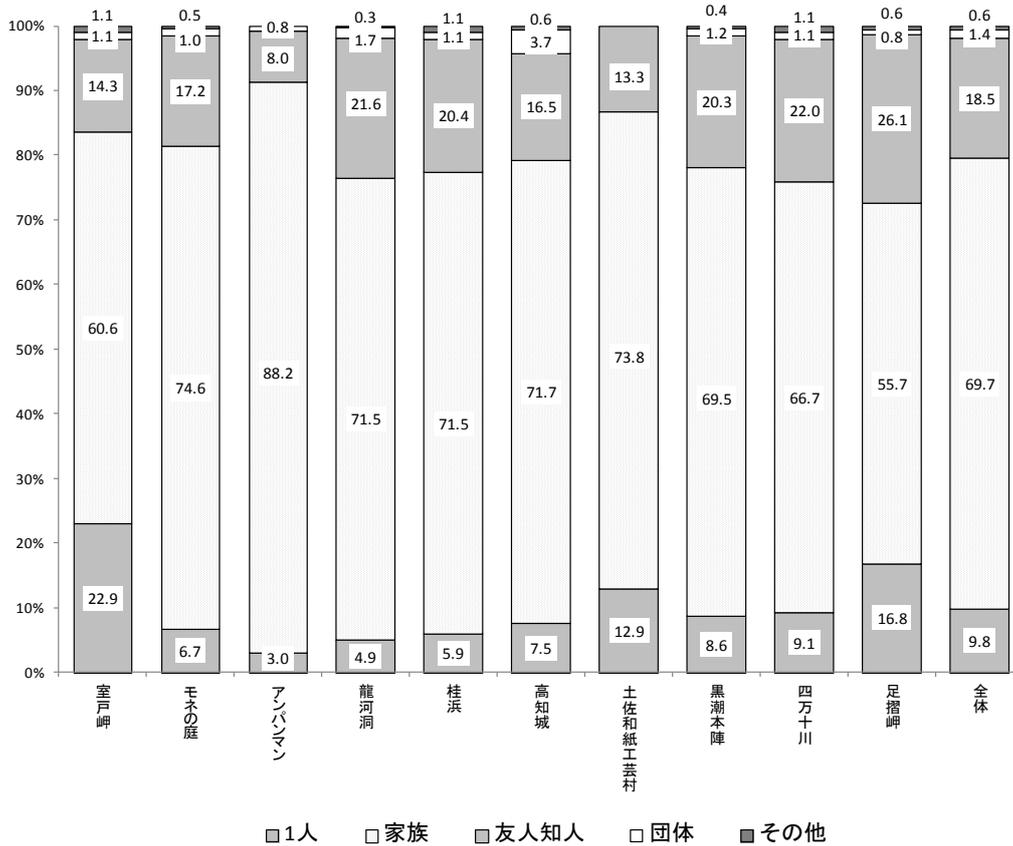
高知市内の「桂浜」と「高知城」は“名所旧跡”が半数近くを占めて最も多く、次いで“食べ物”が多くなっている。ひろめ市場や日曜市、桂浜周辺の主要観光施設などと合わせて訪問する旅行者が多数見られる。

「黒潮本陣」は“食べ物”が4割以上を占めて最も多く、“その他”も帰省・知人訪問の際に訪れた旅行者を中心に3割以上を占めている。

「足摺岬」は「モネの庭」と同様に“自然見物”と“名所旧跡”が多くなっているが、“神仏・霊場巡り”も多く、金剛福寺の巡礼と合わせて訪問する旅行者が多数見られる。

11.2 旅行形態割合

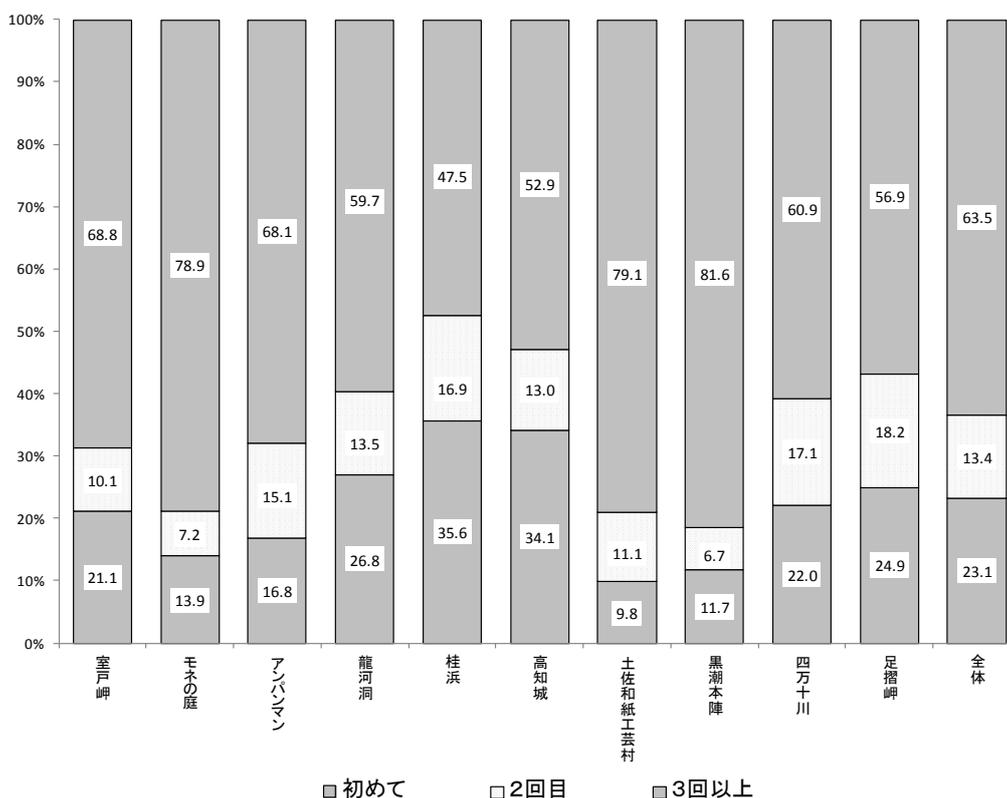
(図 12-3) 調査地別旅行形態割合(%) [26 年]



調査地別の旅行形態割合を項目別にみると、「1人」は室戸岬で20%を超え、足摺岬、土佐和紙工芸村で10%を超えている。「家族」は全ての調査地で最も多い旅行形態となっており、特にアンパンマンミュージアムが88.2%と群を抜いて多く、モネの庭、土佐和紙工芸村が続いている。「友人知人」は足摺岬、四万十川、龍河洞、桂浜、黒潮本陣で20%を超えており、「団体」は高知城が最も多くなっている。

11.3 過去来県回数割合

(図 12-4) 調査地別過去来県回数割合(%) [26 年]



(参考 16) 過去来県回数割合(%) [26 年、過去 3 年間]

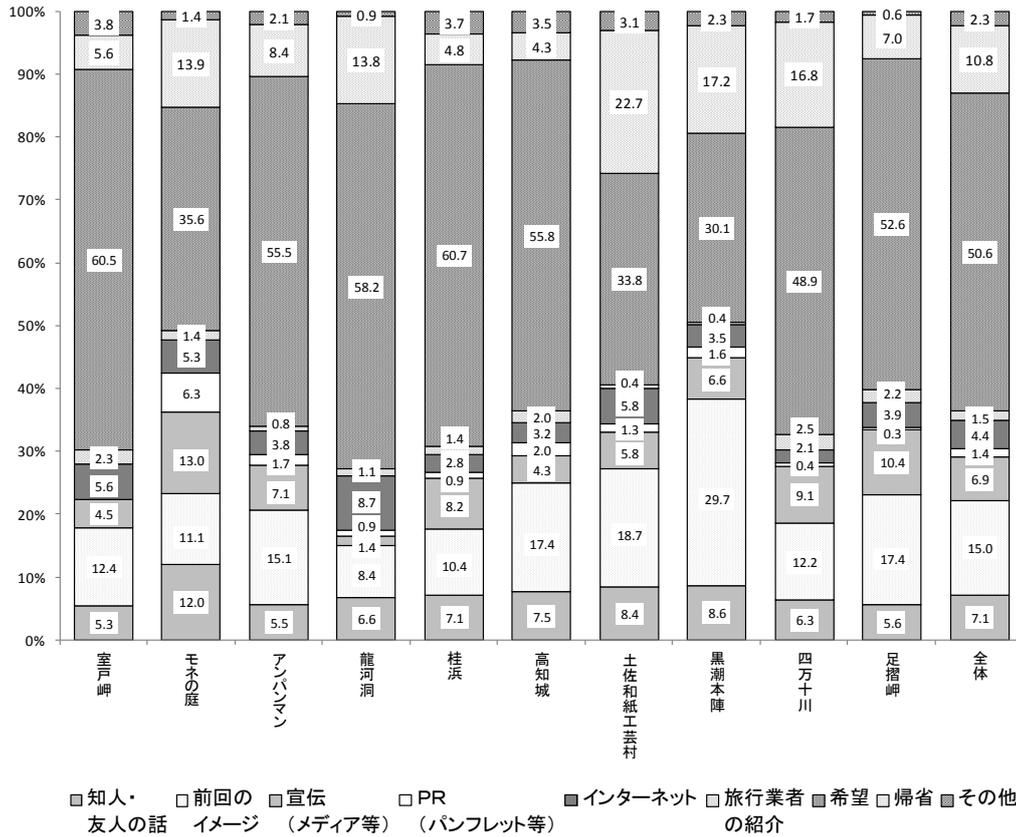
	初めて	2回目	3回以上
23年	24.8	15.1	60.1
24年	24.3	15.3	60.4
25年	24.5	14.7	60.8
26年	23.1	13.4	63.5

全体の過去来県回数は、「初めて」の旅行者が 23.1%、「2回目」が 13.4%、「3回以上」が 63.5%となっている。平成 23 年度の調査から通してみると（参考 16）、「3回以上」の割合は過去最高となり、前年と比べると 2.7 ポイント増加している。「初めて」は 1.4 ポイント減少、「2回目」は 1.3 ポイント減少となっている。

項目別で割合の多い調査地は、「初めて」は桂浜と高知城が 3 割を超えており、「2回目」は足摺岬と四万十川など、「3回以上」は黒潮本陣、モネの庭、土佐和紙工芸村が 8 割近くを占めている。

11.4 動機割合

(図 12-5) 調査地別動機割合(%) [26年]



(表 12-6) 調査地別動機割合(%) [26年]

	知人・友人の話	前回のイメージ	宣伝(メディア等)	PR(パンフレット等)	インターネット	旅行者の紹介	希望	帰省	その他
室戸岬	5.3	12.4	4.5	0.0	5.6	2.3	60.5	5.6	3.8
モネの庭	12.0	11.1	13.0	6.3	5.3	1.4	35.6	13.9	1.4
アンパンマン	5.5	15.1	7.1	1.7	3.8	0.8	55.5	8.4	2.1
龍河洞	6.6	8.4	1.4	0.9	8.7	1.1	58.2	13.8	0.9
桂浜	7.1	10.4	8.2	0.9	2.8	1.4	60.7	4.8	3.7
高知城	7.5	17.4	4.3	2.0	3.2	2.0	55.8	4.3	3.5
土佐和紙工芸村	8.4	18.7	5.8	1.3	5.8	0.4	33.8	22.7	3.1
黒潮本陣	8.6	29.7	6.6	1.6	3.5	0.4	30.1	17.2	2.3
四万十川	6.3	12.2	9.1	0.4	2.1	2.5	48.9	16.8	1.7
足摺岬	5.6	17.4	10.4	0.3	3.9	2.2	52.6	7.0	0.6
全体	7.1	15.0	6.9	1.4	4.4	1.5	50.6	10.8	2.3

※ 背景色+太字は動機ごとの上位2位まで。

全体の動機割合は、「本人・家族の希望」が50.6%と最も多くおよそ半数を占めている。次いで「前回のイメージ」が15.0%、「帰省」が10.8%、「知人・友人の話」が7.1%となっている。

項目別で割合が多かった調査地をみると、「知人・友人の話」はモネの庭や黒潮本陣、「前回のイメージ」は黒潮本陣や土佐和紙工芸村、「宣伝（メディア等）」はモネの庭や足摺岬、「PR（パンフレット等）」はモネの庭や高知城、「インターネット」は龍河洞や土佐和紙工芸村、「旅行業者の紹介」は四万十川や室戸岬、「本人・家族の希望」は桂浜や室戸岬、「帰省」は土佐和紙工芸村や黒潮本陣となっている。

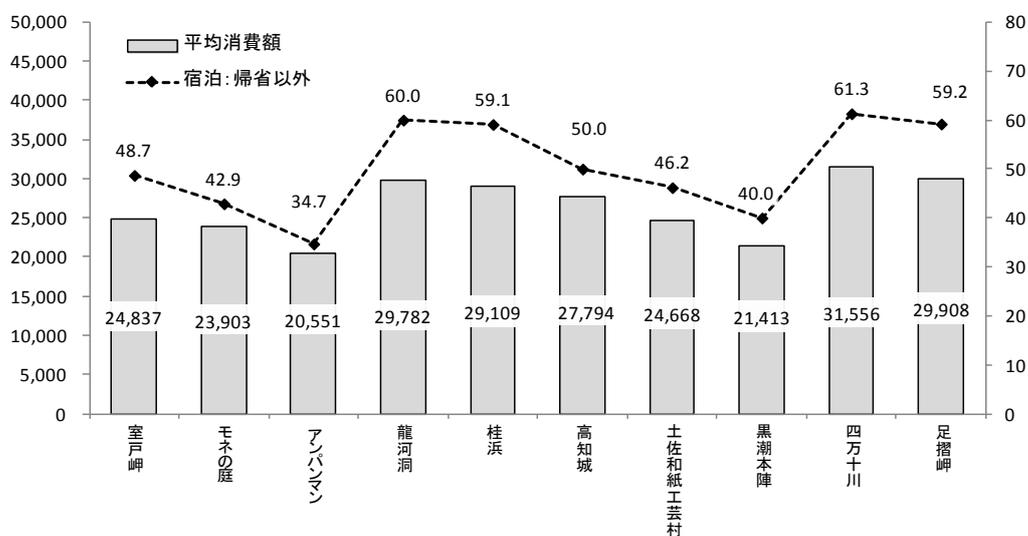
12 総括

次年度の観光客の国内動向は、北陸新幹線の開通により北陸地方、大河ドラマにより中国地方に注目が集まると推察される。そのような厳しい状況において、高知県観光がさらなる発展を遂げるためには、以下のような課題が挙げられる。この総括では、調査で得られた分析結果と、旅行者の声などを参考にまとめている

1. 旅行者の宿泊割合

帰省以外の目的で来県した旅行者の県内宿泊割合と平均消費額の関連を見ると(参考17)、ほぼ正の相互関係があることが分かる。アンパンマンミュージアムは平均消費額が20,551円、宿泊割合が34.7%とともに際立って低くなっている。それに対して、四万十川は平均消費額が31,556円、宿泊割合が61.3%と最も高くなっている。このことから、県内平均消費額を増加させるためには、いかに宿泊割合(旅行日数)を増加させるかが課題となる。

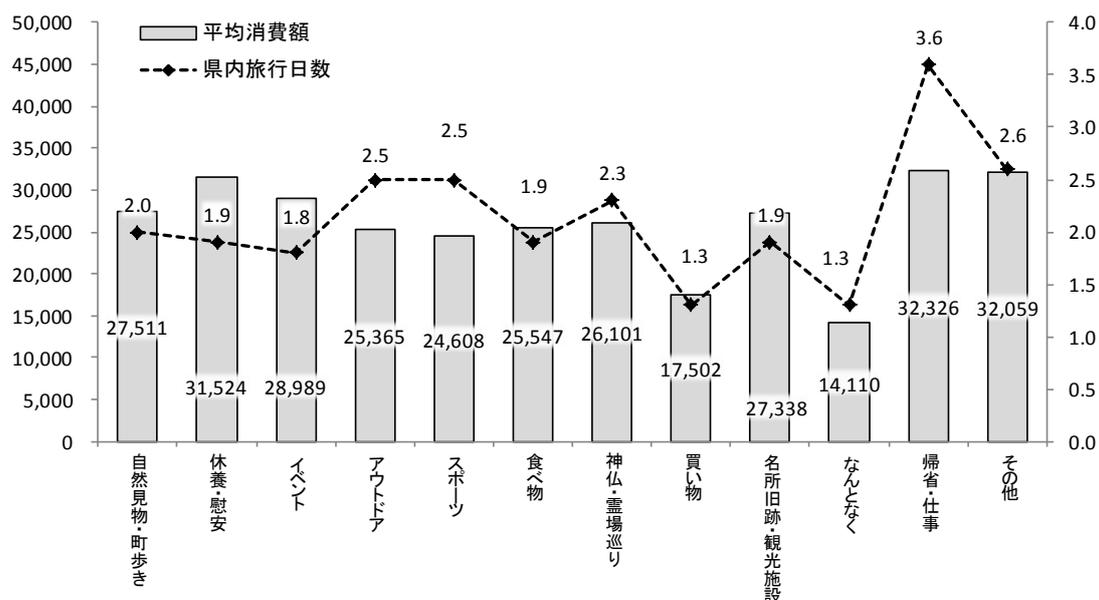
(参考17) 調査地別県内平均消費額(円)、帰省以外の県内宿泊割合(%) [26年]



高知県には恵まれた自然環境がある。いの町の土佐和紙工芸村や四万十市の四万十川観光遊覧船乗場での調査では、カヌーやサーフィンに参加した旅行者から、その楽しさを感じたこととして聞くことがあった。そのような旅行者は毎年同じ時期に高知県を訪れるリピーターになっているケースも多い。また、高知県には春から初秋にかけて、川や海で旅行者が体験できる体験型観光メニューが豊富に揃っている。また年間を通じて楽しめるサイクリングやキャンプもある。

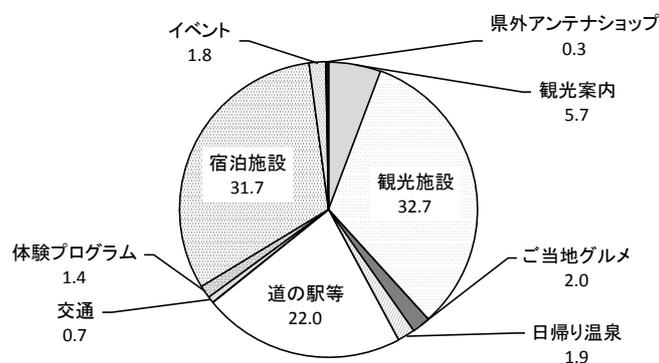
アウトドアやスポーツを目的とした旅行者の県内旅行日数を見ると（参考 18）、ともに 2.5 日になっている。先述したような体験型観光メニューを活用し、リピーター及び長く滞在する旅行者を増加させることは、全国のトレンド（観光ブーム）に影響されず、県内消費額を増加させる有効策の一つと考えられる。

（参考 18） 旅行目的別県内平均消費額(円)、県内旅行日数[加重平均](日) [26 年]



ちなみに、県外に在住する龍馬パスポートユーザーが利用した観光施設テーマ割合を見ると（参考 19）、体験プログラムの割合は 1.4%に留まっており、新たな需要の掘り起こしが十分に可能であると推測できる。

（参考 19） 利用施設テーマ割合(%) [26 年 県外利用者のみ]



「龍馬パスポート」利用者動向 平成26年度報告書より

さらには、「高知龍馬マラソン」「四万十川ウルトラマラソン」「四万十ドラゴンライド」などのスポーツイベントに参加する旅行者、プロゴルフやプロ野球、Jリーグなどのスポーツ・キャンプ観戦を目的に訪れた旅行者にも、県内観光地の周遊を促す取り組みを実施していくことが、旅行日数と県内消費額の増加につながると思われる。

2. 食資源の有効活用

対面調査時において、「ご当地井や地元の食のPRが弱く、情報が得られない」、「県東部では食事に困る」など、旅行中の食事処や食資源についての情報不足に対する声が多かった。その反面、旅行目的割合で“食べ物”が全体の17.0%を占めており（P29：表6-1）、カツオのタタキや柚子など「高知にはおいしいものがたくさんあって、わざわざ高知に食べに来た」という旅行の動機付けとなっている声も聞かれた。

先述した旅行者の不満を解消すると同時に、高知の豊富な食資源を消費動向に結びつけるためには、旅行中に現地で得られる飲食店等の情報提供が課題となる。

3. 地域の観光情報拠点

前項で記述した、食事処や食資源の情報以外にも、「県内各地で案内板の整備をすすめてほしい」、「イベントを各地で開催しているが、その情報を効果的に宣伝してほしい」といった観光情報全般の提供について改善を求める声が根強くある。

入込交通機関の大半を車が占めているため（P31：図7-2）、集客力が強く利便性も高いサービスエリアや道の駅は、それぞれの地域における情報拠点として活用できる。この情報拠点には、旅行者のニーズや旅行形態に合わせ、細やかな情報提供ができる観光コンシェルジュのようなスタッフを目立つ場所に配置することで、「食・宿・人とのふれあい」といった旅先での楽しみをそれぞれの地域でPRすることが可能になる。

27年度に開催される「高知家・まるごと東部博」や、県外からさまざまな参加者が集う「高知龍馬マラソン」などのスポーツイベントは、観光振興の観点から見逃せない機会であることは間違いない。このような主要なイベント開催時には、「また高知に来たい」、「少し足を延ばしてみようか」と思ってもらうためにも、情報拠点で積極的に情報提供を行う必要があると考えられる。

併せて、2020年に東京オリンピック（夏季）・パラリンピックが開催予定で、その前後には外国人旅行者のインバウンドが期待できる。今後、高知県も本格的な受け入れ準備が求められる。観光情報拠点を中心とした観光案内板の外国語表記、外国語の観光パンフレットなどは、早期かつ優先的に取り組むべき課題と思われる。

高知県観光客アンケート調査票

Q1. あなたのお住まいはどこですか。国内にお住まいであれば都道府県名、海外であれば国名をご記入下さい。
また、高知県内にお住まいの場合は市町村名をご記入下さい。

(都道府県名: _____) 海外の場合 (国名: _____)

高知県内の場合
→ (市町村名 _____)

Q2. あなたの性別、年齢を選んで下さい。※それぞれ1つだけ

性別 : 1. 男性 2. 女性
年齢 : 1. 10歳未満 2. 10歳代 3. 20歳代 4. 30歳代 5. 40歳代
 6. 50歳代 7. 60歳代 8. 70歳代 9. 80歳以上

Q3. 今回の旅行は日帰りですか、宿泊ですか。※1つだけ

宿泊であれば、何泊か、そのうち県内では何泊するか、いくつの施設に宿泊するかをご記入下さい。
また、県内ではどの地域の、どのような施設に何泊するかをご記入下さい。※いくつでも

1. 日帰り 2. 宿泊

宿泊した施設の数
↓
宿泊数 _____ 泊 → そのうち県内 _____ 泊 ⇒ 県内宿泊施設数 _____ 施設

↓

<県内宿泊施設>

- | | |
|-----------------------------------|-------------------|
| 1. 実家や知人・親戚宅 () 泊 | 2. 旅館 () 泊 |
| 3. ホテル () 泊 | 4. ペンション・民宿 () 泊 |
| 5. 保養所・研修所 () 泊 | 6. キャンプ場 () 泊 |
| 7. (キャンプ場以外の) 車中泊・交通機関内での宿泊 () 泊 | |
| 8. 別荘・リゾートマンション () 泊 | 9. 会員制の宿泊施設 () 泊 |
| 10. ユースホステル・ライダーズイン () 泊 | 11. 公共の宿 () 泊 |
| 12. その他 () 泊 | |

<県内宿泊場所>

- | | |
|--------------------------|---------------------------|
| 1. 東部地域 (東洋町～芸西村) () 泊 | 2. 中央東地域 (香南市～南国市) () 泊 |
| 3. 中央地域 (高知市) () 泊 | 4. 中央西地域 (いの町～仁淀川町) () 泊 |
| 5. 高幡地域 (須崎市～四万十町) () 泊 | 6. 幡多地域 (黒潮町～大月町) () 泊 |

Q4. 今回のご旅行の主要な目的は何ですか。※1つだけ

1. ビジネス
2. 観光

「2 観光」を選んだ場合、今回のご旅行の主な目的を1つ教えてください。

01 自然見物・町歩き 02 休養・慰安 03 祭り・イベント
04 登山・アウトドア・キャンプ 05 スポーツ (プロ野球キャンプ・観戦など)
06 食べ物 (味覚・酒) 07 神仏・霊場巡り 08 買い物
09 名所旧跡・観光施設などの見学・行楽 10 なんとなく (ドライブ等含む)
11 その他 ()

3. 帰省・知人訪問
4. (1～3のどれでもない) その他

Q5. 今回のご旅行のきっかけを教えてください。

1. 知人・友人の話 2. 前回のイメージ 3. 宣伝 (TV・ラジオ・雑誌等)
4. PR (パンフレット・キャンペーン等) 5. インターネット (携帯電話含む)
6. 旅行業者の紹介・ツアー参加 7. 来たかった・家族の希望
8. 帰省 9. その他

Q6. 今回のご旅行の企画・手配について教えてください。

1. 自分で旅行プランを立てて、宿泊・交通機関なども自分で手配した
2. 旅行プランを決めて、宿泊や高知への往復には旅行代理店のフリープランを使っている
3. 旅行代理店でコースが決められている添乗員付きの旅行プランを使っている

Q7. あなたも含めて、何人での、どなたと一緒にの旅行ですか。 ※子供や乳幼児も含む

() 人
 2人以上の場合
 → 1. 家族 2. 友人 3. 職場・学校等の団体旅行 4. その他

Q8. ご一緒のみなさん全員の、今いる観光地の訪問が何回目かご存じですか。 ※回答の合計はQ7と一致

1. 知らない
2. 知っている → 1回目の人数 () 人、2回目の人数 () 人
 3回目の人数 () 人、4回目以上の人数 () 人

Q9. (県外にお住まいの方のみお答えください)

あなたは、高知県の訪問が何回目ですか。

1. はじめて 2. 2回目 3. 3回目以上

Q10. (県外にお住まいの方のみお答えください)

ご一緒のみなさん全員の、高知県の訪問が何回目かご存じですか。 ※回答の合計はQ7と一致

1. 知らない
2. 知っている → 1回目の人数 () 人、2回目の人数 () 人
 3回目の人数 () 人、4回目以上の人数 () 人

Q11. 今回の旅行で訪れた県内の観光地と移動に用いた交通機関をご記入下さい。これから訪問する観光地についても予定をご記入下さい。 ※観光地は一覧表より、交通機関は下表より番号をお選び下さい。

また、この県に訪れる前・後に立ち寄った(立ち寄る予定の)都道府県があれば記入下さい。

高知県までの主な交通機関 [] 高知県内での主な交通機関 []

ここに来る前にいた場所

居住地 → [] → [] → [] → [] → [] → [] → 調査地点

交通機関 [] 交通機関 []

現在地

これから行く予定の場所

調査地点 → [] → [] → [] → [] → [] → [] → 居住地

交通機関 [] 交通機関 []

【表】交通機関

- ① J R 新幹線 ② J R 在来線 ③ 私鉄・地下鉄 ④ モノレール ⑤ -1 貸切バス
- ⑤ -2 観光バス (MY遊バス等含む) ⑥ 高速バス ⑦ 市内バス・路線バス
- ⑧ 路面電車 ⑨ タクシー・ハイヤー ⑩ レンタカー ⑪ 自家用車、社用・公用車
- ⑫ 飛行機 ⑬ フェリー ⑭ バイク ⑮ その他

当県以外に立ち寄り都道府県がある場合はご記入ください

【表】 交通機関

① J R 新幹線 ② J R 在来線 ③ 私鉄・地下鉄 ④ モノレール ⑤ -1 貸切バス
 ⑤ -2 観光バス (MY遊バス等含む) ⑥ 高速バス ⑦ 市内バス・路線バス
 ⑧ 路面電車 ⑨ タクシー・ハイヤー ⑩ レンタカー ⑪ 自家用車、社用・公用車
 ⑫ 飛行機 ⑬ フェリー ⑭ バイク ⑮ その他

Q12. 今回の旅行で、使う費用（これから使う予定も含めて）を教えてください

1人当たりの費用を、下欄の項目別にご記入下さい。

- ※ 交通費は高速料金やガソリン代や駐車場代を含め、県外・県内分を分けて記入
- ※ 今回の旅行がバック旅行である場合、費用が県内のみか、県外分を含むかを選択
- ※ ←表内の回答がグループ合計の場合にはチェック

	使用費用		使用費用	
①交通費	(県内分)	円	(県外分)	円
②宿泊費	(県内分)	円		
③土産代	(県内分)	円		
④飲食費	(県内分)	円		
⑤入場料	(県内分)	円		
⑥その他	(県内分)	円		
⑦バック料金				円
				↑ <input type="checkbox"/> 県内分のみ もしくは <input type="checkbox"/> 県外分含む

Q13. ご意見・ご感想（他県と比べて良い点、悪い点等もお聞かせください）

- ※ 冬期は特に、この季節に高知へ来られた理由、高知の魅力など（冬季対策の参考意見として）をお聞かせください

※調査票コード
1. 観_共通_日

都道府県	調査地点ID	調査年月日	調査時刻	ID
			:	